

# 京都銀行

2019年度 中間期

ディスクロージャー

2019年4月1日～2019年9月30日



## プロフィール

〈2019年9月30日現在〉

名 称／株式会社 京都銀行／The Bank of Kyoto, Ltd.  
本 店 所 在 地／京都市下京区烏丸通松原上る薬師前町700番地  
創 立／1941年（昭和16年）10月  
総 資 産／9兆5,237億円  
預金・譲渡性預金／8兆663億円  
貸 出 金／5兆5,315億円  
資 本 金／421億円  
発行済株式総数／75,840千株  
格 付 け／A (R&I)  
A (S&P)  
従 業 員 数／3,588人  
拠 点 数／471か所  
※本支店168・出張所6・店舗外ATM293・海外駐在員事務所4（香港・上海・大連・バンコク）

### 京都銀行では積極的な情報開示 (ディスクロージャー)を推進しています。

本誌は銀行法第21条に基づいて作成したディスクロージャー資料  
(業務及び財産の状況に関する説明書類)です。

なお、2019年11月発行のミニディスクロージャー誌「2019年9月  
中間決算のご報告」では、当行の各種取り組みや業績ハイライトなどを  
分かりやすくご紹介しておりますので、あわせてご覧ください。

## CONTENTS

### 中小企業の経営の改善及び地域の 活性化のための取組の状況

地域貢献に関する考え方	1
中小企業の経営支援に関する取組状況	2
地域の活性化に関する取組状況	4

### 事業の概況

経営環境と業績	5
主要な経営指標の推移	6

### 業績および財務データ

中間連結財務諸表	7
セグメント情報等	16
中間財務諸表	17
損益の状況	21
預金業務	25
貸出業務	26
信託業務	29
証券業務	30
有価証券関係情報	32
デリバティブ取引情報	34
株式・資本の状況	37

### 自己資本の充実の状況

〈自己資本の構成に関する開示事項〉	38
〈定量的な開示事項〉	40
自己資本の充実度	40
信用リスク	41
信用リスク削減手法	52
派生商品取引及び 長期決済期間取引の取引相手のリスク	52
証券化エクスポージャー	53
マーケット・リスク	53
出資等又は株式等エクスポージャー	54
リスク・ウェイトのみなし計算又は 信用リスク・アセットのみなし計算が 適用されるエクスポージャー	55
金利リスク	55

中間期開示項目一覧	56
-----------	----

# 中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組の状況

## 地域貢献に関する考え方

京都銀行では、創立以来「地域社会の繁栄に奉仕する」を経営理念として掲げ、地域の産業育成や環境問題への取り組みなどさまざまな形で地域貢献の役割を担ってまいりました。

金融情勢や社会環境の変化によりお客さまのニーズはますます多様化しておりますが、地域金融機関における本来の役割は、本業である銀行業務を通じて地域経済・社会の発展に貢献していくことであるとの認識のもと、地域とともに持続的な発展を目指してまいりたいと考えております。

また、地域のみならず皆様からのご理解と信頼を得られますよう、当行の取り組みについて情報を開示してまいります。

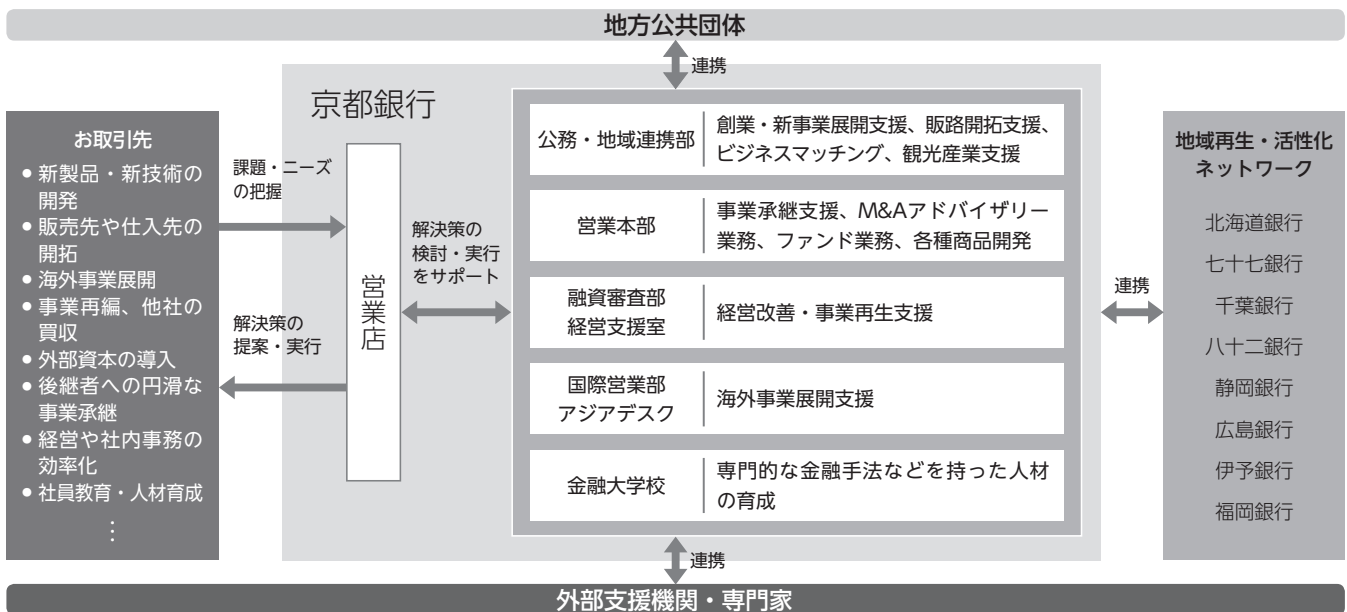
### ●「地域密着型金融」の基本方針

「積極的なコンサルティング機能の発揮により、中小企業者の経営安定・成長発展を支援し、地域経済の活性化に貢献する」

### ●取組態勢

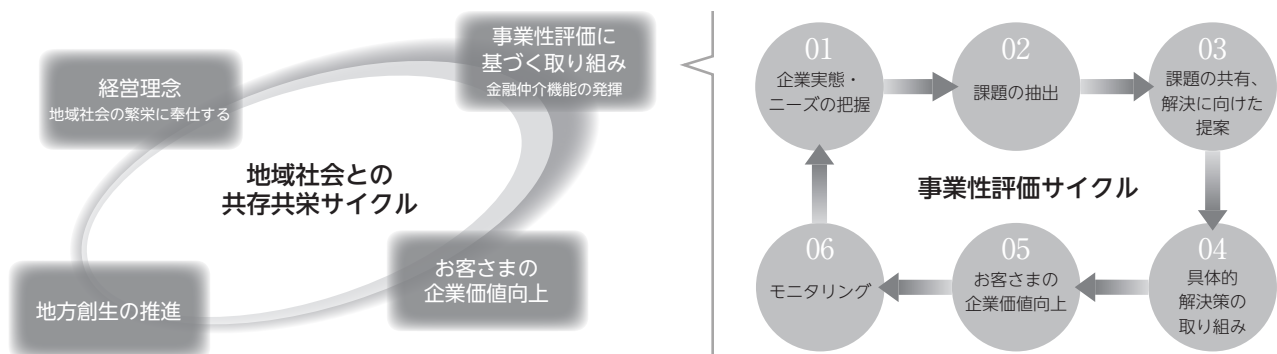
当行では、お取引先のさまざまな経営課題やニーズに対して、営業店と本部各部が地方公共団体や外部支援機関などと連携して積極的なコンサルティング機能を発揮できる態勢を整えております。また、以下の3点を地域密着型金融の取り組みの3つの柱として、地域の中小企業などへの経営課題のサポートや地域経済の活性化につながる取り組みを実施しております。

- (1) お取引先に対するコンサルティング機能の発揮
- (2) 地域の面的再生への積極的な参画
- (3) 取組態勢の整備【人材の育成・業績評価・積極的な情報発信】



### ●事業性評価の推進

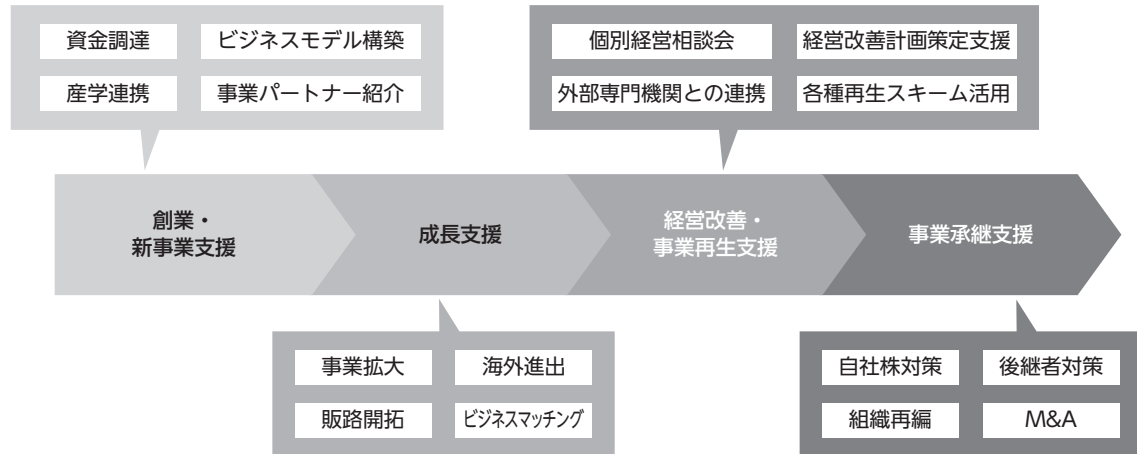
当行は、さまざまなライフステージにある企業の事業内容や成長可能性を適切に評価(事業性評価)し、経営課題やニーズを共有した上で、外部機関との連携を含めた解決策の提案・実行支援に取り組んでおります。また、さまざまな研修などを通じて、行員の目利き力・コンサルティング力の向上に努めるとともに、優れた取り組みを表彰する制度「地方創生・事業性評価 頭取賞」を創設し、より質の高いソリューションをおこなえる体制を整えております。



## 中小企業の経営支援に関する取組状況

### ●ライフステージに応じた経営支援の取り組み

当行では、「地域密着型金融の基本方針」および「金融円滑化管理に関する方針」に基づき、お取引先のライフステージに応じたきめ細やかなサポートの実施や金融の円滑化を通じて、お取引先の経営安定・成長発展を支援しております。



### ●創業・新規事業開拓の支援

創業企業やベンチャー企業、新しい事業分野への進出を検討されているお取引先の課題、ニーズに対し、ビジネスマッチングや各種情報の提供、専門家(機関)や大学の紹介などをおこなっているほか、京銀輝く未来応援ファンド2号をはじめとする当行独自ファンドなどを通じた支援をおこなっております。

#### 【セミナー等開催実績(2019年度上期)】

開催時期	名称
2019年4月	ものづくり企業のための産学連携セミナーin東大阪
2019年8月	ものづくり企業のための産学連携セミナーin宇治

開催時期	名称
2019年8月	創業フォローアップセミナー「改善のススメ」2nd in京都
2019年9月	NE DO支援事業説明会

### ●成長段階における支援

広域に展開する当行の店舗ネットワークと情報網を活用し、ビジネスマッチングや各種イベントの開催によるお取引先の販路拡大などをサポートしております。

また、海外でのビジネスを検討・展開しておられるお取引先に対して、海外進出支援や現地調達・販路拡大を支援する商談会を開催するなど、海外事業のサポートも積極的におこなっております。

#### 【セミナー等開催実績(2019年度上期)】

開催時期	名称
2019年5月	クラウドファンディング活用セミナーin舞鶴
2019年6月	働き方改革セミナー
2019年7月	IT導入補助金活用セミナー&相談会
2019年8月	商談力向上セミナー2019
2019年8月	第27回京銀ビジネス商談会
2019年9月	インフォメーションパザール in Tokyo 2019
2019年9月	地方銀行フードセレクション2019

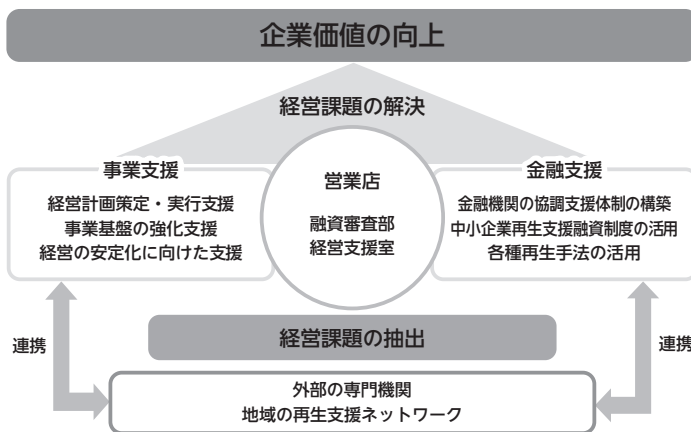
#### 【セミナー等開催実績(海外事業サポート)(2019年度上期)】

開催時期	名称
2019年4月	BIDV ビジネスセミナー&交流会 (ハノイ)
2019年5月	タイ日系企業ビジネス交流会 (バンコク)
2019年5月	中国ビジネスセミナー
2019年6月	外国籍社員の本音がわかる ～ 採用・定着率UPセミナー ～
2019年6月	第11回 香港・華南地区 日系企業ビジネス交流会 (香港)
2019年6月	大連・地方銀行合同企業交流会2019 (大連)
2019年6月	第6回 Mfair/バンコク2019 ものづくり商談会 (バンコク)
2019年7月	中国主要都市ビジネスセミナー (上海・蘇州・大連・武漢)
2019年9月	上海ビジネス交流会 実務セミナー (上海)

## ●経営改善・事業再生の支援

経営改善・事業再生が必要なお取引先に対し、経営課題を共有のうえ各種支援をおこなうことで、企業価値の向上に向けて取り組んでおります。

経営改善・事業再生支援の取り組みにおいては、地域の再生支援ネットワークおよび外部の専門機関との緊密な連携や各種の再生手法の活用により、経営改善計画の策定支援や金融機関の協調体制に基づいた金融支援の実施に積極的に取り組んでおります。



## ●外部機関との連携による再生支援の取り組み

中小企業再生支援協議会や地域経済活性化支援機構など外部の専門機関と連携をおこない、スポンサー型の再生支援や資本性借入金(DDS)などの各種再生手法も活用し、お取引先の経営改善・事業再生を支援しております。

## ●地域の再生支援ネットワークの活用

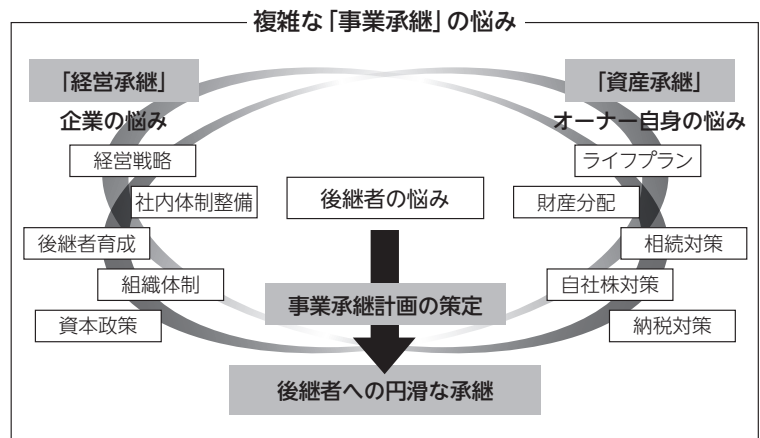
当行では、従来より「京都再生ネットワーク会議」や「北近畿中小企業支援連絡会議」など地域の再生支援ネットワークを通じ、お取引先の再生支援に地域一体となって取り組んでおります。

## ●事業承継・M&Aの支援

事業承継の悩みを抱えておられるお取引先に対するサポートとして、自社株対策や事業承継に関する初期的なアドバイス、税理士などの専門家と連携した最適な事業承継スキーム、課題解決策の検討などをおこなっております。

また、後継者不足、業界の再編等により事業存続の悩みをお持ちのお取引先に対して、M&Aによる課題解決のサポートもおこなっております。

M&Aの取り組みに際しては、近畿2府3県、東京、愛知の広域な店舗網を活用した独自の情報提供に加え、広域的な地方銀行間の情報交換の枠組みである、「地域再生・活性化ネットワーク」をはじめとする、多数の提携先と連携したサポートを実施しております。これらの取り組みにより、質・量ともにお取引先のニーズに適ったご提案をおこなっております。



## 【取組実績(2019年度上期)】

項目	件数・社数
事業承継支援	158件
M&A支援先数(成約)	6社

## 【セミナー開催実績(2019年度上期)】

開催時期	名称
2019年6月	「カイシャのミライ」プロジェクト

## 地域の活性化に関する取組状況

### ●地域活性化への取り組み

地域金融機関である当行にとって地域経済の活性化への貢献は極めて重要な使命であると認識しております。

地域の観光産業や成長産業に対する支援強化、行政施策との連携により、積極的に地域活性化につながる取り組みを展開しております。

### ●観光産業振興への取り組み

観光に関する取り組みとして、当行の店舗のロビーにて、京都の魅力ある観光地や行事・史跡などを紹介する「京都観光写真展」を開催しております。「京都観光写真展」は2005年から開催しており、京都府など行政をはじめ各地域の観光関連団体にご協力いただき、2019年度は「明智光秀ゆかりの地を巡る」など6つのテーマで開催しております。

#### 【京都観光写真展】

テーマ	内 容
「明智光秀ゆかりの地を巡る」	2020年大河ドラマ「麒麟がくる」にちなみ、明智光秀ゆかりの地を紹介します。
「京都歴史回廊を訪ねて」	数多くの文化的・歴史的資産がある京都市西北部「きぬがさ」エリアの社寺や景観などを紹介します。
「天地山海にいきづく和の源流・海の京都を訪ねて」	海の京都エリアにおける豊かな自然、社寺などを紹介します。
「心の中に広がる日本の原風景・森の京都を訪ねて」	森の京都エリアにおける豊かな自然、社寺などを紹介します。
「日本茶の歴史・文化の伝承・お茶の京都を訪ねて」	お茶の京都エリアにおける茶畑の風景や社寺などを紹介します。
「風が運ぶ竹の香り・竹の里・乙訓の風景」	竹の里・乙訓エリアにおける竹林や社寺などを紹介します。

### ●「地方創生」の取り組み

当行は、「地方創生」の取り組みとして、地方公共団体が「地方版総合戦略」の推進をおこなうにあたり、地域金融機関として積極的に連携するとともに、一層の体制強化をはかっております。

### ●地方公共団体、学校法人等との連携

当行エリア内の地方公共団体や教育機関と幅広い分野での連携を深めることにより「地方創生」をより一層推進しております。

#### 【京都府公民連携プラットフォーム開催実績(2019年度上期)】

回 数	開催時期	テーマ	開催地
第1回	2019年7月	・公営住宅を取り巻く公民連携の最前線 ・PPP(公民連携)手法で市営住宅を建て替えるプロジェクトについて ・公営住宅や公民連携の課題をテーマとした意見交換	京都市
第2回	2019年9月	・効果的なサウンディング型市場調査の進め方 ・道の駅内6施設「ファームガーデンやくの」サウンディング型市場調査	福知山市

### ●「地方創生ガイドブック」の公表

「地方創生」のために当行が提供する支援サービスをまとめた「地方創生ガイドブック」を作成し、ホームページにて公表しております。

# 事業の概況

## 経営環境と業績

### ●金融経済環境

当中間連結会計期間のわが国経済は、米中貿易摩擦の激化や海外経済の減速を背景に企業の輸出・生産活動で弱めの動きが続きましたが、総じてみれば緩やかに回復しました。この間、個人消費は、天候不順による一時的な落ち込みもありましたが、雇用・所得環境の改善を背景に全体的には堅調に推移しました。一方、企業部門では、外需不振の影響を受けつつも、内需関連が底固く全体を下支えしました。また公共投資は、災害復興事業の進捗などを背景に増加しました。期末にかけては、海外経済の先行きへの不確実性が増すとともに、原油価格の上昇や金融資本市場の変動などによるリスクへの懸念が広がる中で、期を終えることとなりました。

### ●営業の経過および成果

#### (連結)

預金・譲渡性預金は、個人預金を中心に前連結会計年度末比75億円増加し、8兆380億円となりました。

貸出金は、法人・個人向けともに積極的な対応に努めました結果、前連結会計年度末比424億円増加し、5兆5,218億円となりました。

有価証券は、市場動向を注視しつつ、適切な運用に努めた結果、前連結会計年度末比25億円増加し、2兆9,199億円となりました。なお、時価会計に伴う評価差額（含み益）は、前連結会計年度末比709億円増加し、6,719億円となっております。

また、総資産は、前連結会計年度末比1,283億円減少し、9兆5,367億円となり、株主資本は、利益剰余金の増加により前連結会計年度末比78億円増加し、4,458億円となりました。

次に損益状況については、経常収益は、その他業務収益を中心に前年同期比20億11百万円増加し、605億47百万円となりました。経常費用は、営業経費が減少したものの、資金調達費用等が増加したことから、前年同期比8億2百万円増加し、423億96百万円となりました。

この結果、経常利益は、前年同期比12億9百万円増加し、181億51百万円となりました。また、親会社株主に帰属する中間純利益は、前年同期比8億51百万円増加し、128億74百万円となりました。

セグメント別の業績については、当行グループの中心である銀行業において、経常収益は、前年同期比19億74百万円増加し、556億76百万円となり、セグメント利益は、前年同期比12億86百万円増加し、168億33百万円となりました。

また、その他において、経常収益は、前年同期比3百万円増加し、62億13百万円となり、セグメント利益は、前年同期比77百万円減少し、13億29百万円となりました。

当中間連結会計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、貸出金の増加および債券貸借取引受入担保金の減少等により1,525億円の支出（前年同期は1,160億円の支出）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の売却・償還等により810億円の収入（前年同期は82億円の収入）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払い等により52億円の支出（前年同期は182億円の支出）となりました。

この結果、現金及び現金同等物の残高は、当中間連結会計期間において768億円減少し、8,218億円となりました。

#### (単体)

預金・譲渡性預金の当中間会計期間末残高については、前事業年度末比86億円増加して、8兆663億円となりました。

貸出金は、前事業年度末比439億円増加して、5兆5,315億円となりました。

有価証券は、前事業年度末比23億円増加して、2兆9,234億円となりました。なお、このうち時価会計に伴う評価差額（含み益）は、前事業年度末比708億円増加して、6,712億円となっております。

次に損益状況については、経常利益は、前年同期比12億86百万円増加して168億33百万円となり、中間純利益は前年同期比12億23百万円増加して124億9百万円となりました。

## 主要な経営指標の推移

### ●連結経営指標

(単位：百万円)

	2017年度中間期	2018年度中間期	2019年度中間期	2017年度	2018年度
連結経常収益	54,775	58,535	60,547	110,232	133,539
連結経常利益	14,571	16,941	18,151	26,931	45,184
親会社株主に帰属する中間純利益	11,316	12,023	12,874	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	-	-	-	19,323	31,681
連結中間包括利益	133,668	3,590	54,804	-	-
連結包括利益	-	-	-	174,300	△76,981
連結純資産額	897,696	933,728	900,493	932,365	850,934
連結総資産額	9,058,693	9,501,009	9,536,774	9,478,592	9,665,127
連結ベースの1株当たり純資産額	11,741.36円	12,328.65円	11,881.77円	12,311.25円	11,232.14円
連結ベースの1株当たり中間純利益	149.63円	159.23円	170.44円	-	-
連結ベースの1株当たり当期純利益	-	-	-	255.89円	419.57円
連結ベースの潜在株式調整後1株当たり中間純利益	149.40円	158.94円	170.20円	-	-
連結ベースの潜在株式調整後1株当たり当期純利益	-	-	-	255.46円	418.78円
連結自己資本比率（国内基準）	12.08%	11.09%	11.96%	11.39%	11.58%
営業活動によるキャッシュ・フロー	△140,506	△116,022	△152,589	46,997	24,716
投資活動によるキャッシュ・フロー	100,500	8,286	81,078	△2,165	49,499
財務活動によるキャッシュ・フロー	△15,271	△18,268	△5,288	△21,415	△20,533
現金及び現金同等物の中間期末残高	766,264	718,951	821,832	-	-
現金及び現金同等物の期末残高	-	-	-	844,950	898,633
従業員数	3,796人	3,786人	3,708人	3,671人	3,646人

(注) 2017年10月1日付で5株を1株に株式併合しております。当該株式併合が2017年度の期首に行われたと仮定して1株当たり純資産額、1株当たり中間（当期）純利益及び潜在株式調整後1株当たり中間（当期）純利益を算出しております。

### ●単体経営指標

(単位：百万円)

	2017年度中間期	2018年度中間期	2019年度中間期	2017年度	2018年度
経常収益	50,365	53,702	55,676	101,053	124,023
うち信託報酬	-	-	3	-	3
業務純益	12,139	11,967	12,931	20,864	19,598
経常利益	13,513	15,547	16,833	24,338	42,454
中間純利益	11,431	11,185	12,409	-	-
当期純利益	-	-	-	18,356	30,029
資本金	42,103	42,103	42,103	42,103	42,103
発行済株式総数	379,203千株	75,840千株	75,840千株	75,840千株	75,840千株
純資産額	884,062	920,367	885,971	920,001	837,088
総資産額	9,047,650	9,490,863	9,523,744	9,467,206	9,653,833
預金残高	6,729,919	6,985,118	6,975,414	6,888,137	7,092,102
貸出金残高	5,079,826	5,399,172	5,531,510	5,274,185	5,487,531
有価証券残高	2,995,367	3,083,482	2,923,431	3,081,118	2,921,059
1株当たり配当額	6.00円	30.00円	30.00円	36.00円	100.00円
単体自己資本比率（国内基準）	11.68%	10.68%	11.52%	11.01%	11.18%
従業員数	3,630人	3,627人	3,588人	3,508人	3,487人
信託財産額	-	-	1,524	-	517
信託勘定貸出金残高	-	-	-	-	-
信託勘定有価証券残高	-	-	-	-	-

(注) 1. 2017年10月1日付で5株を1株に株式併合しております。これに伴い発行済株式総数は303,362千株減少して75,840千株となっております。  
 2. 2017年10月1日付で5株を1株に株式併合しております。2017年度の1株当たり配当額36.00円は、中間配当額6.00円と期末配当額30.00円の合計であり、中間配当額6.00円は株式併合前の配当額、期末配当額30.00円は株式併合後の配当額であります。  
 3. 2018年度の1株当たり配当額100.00円のうち40.00円は特別配当であります。



# 業績および財務データ

当行の中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結株主資本等変動計算書及び中間連結キャッシュ・フロー計算書は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任監査法人トーマツの監査証明を受けております。以下の中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結株主資本等変動計算書及び中間連結キャッシュ・フロー計算書は、上記の中間連結財務諸表に基づいて作成しております。

## 中間連結財務諸表

### ●中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

(単位：百万円)

	2018年度 中間期 (2018年9月30日現在)	2019年度 中間期 (2019年9月30日現在)		2018年度 中間期 (2018年9月30日現在)	2019年度 中間期 (2019年9月30日現在)
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
現金預け金	732,139	853,050	預金	6,978,972	6,968,666
コールローン及び買入手形	71,278	38,924	譲渡性預金	854,199	1,069,407
買入金銭債権	12,804	13,013	コールマネー及び売渡手形	20,442	-
商品有価証券	166	184	債券貸借取引受入担保金	331,564	216,250
金銭の信託	30,080	13,048	借入金	74,982	57,064
有価証券	3,080,085	2,919,938	外国為替	179	363
貸出金	5,391,015	5,521,858	信託勘定借	-	1,524
外国為替	28,667	9,970	その他負債	45,749	88,174
リース債権及びリース投資資産	10,658	12,571	退職給付に係る負債	29,966	30,050
その他資産	59,264	72,798	睡眠預金払戻損失引当金	336	753
有形固定資産	78,387	75,907	偶発損失引当金	773	948
無形固定資産	2,887	3,360	特別法上の引当金	0	0
繰延税金資産	1,349	1,256	繰延税金負債	206,378	181,144
再評価に係る繰延税金資産	5	56	支払承諾	23,736	21,934
支払承諾見返	23,736	21,934	<b>負債の部合計</b>	<b>8,567,281</b>	<b>8,636,280</b>
貸倒引当金	△21,517	△21,101	<b>純資産の部</b>		
			資本金	42,103	42,103
			資本剰余金	34,331	34,260
			利益剰余金	345,906	371,003
			自己株式	△1,811	△1,548
			<b>株主資本合計</b>	<b>420,530</b>	<b>445,819</b>
			その他有価証券評価差額金	513,822	467,622
			繰延ヘッジ損益	△290	△12,311
			土地再評価差額金	△13	△128
			退職給付に係る調整累計額	△3,121	△3,247
			<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>510,396</b>	<b>451,934</b>
			新株予約権	550	446
			非支配株主持分	2,250	2,293
			<b>純資産の部合計</b>	<b>933,728</b>	<b>900,493</b>
<b>資産の部合計</b>	<b>9,501,009</b>	<b>9,536,774</b>	<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>9,501,009</b>	<b>9,536,774</b>

## ●中間連結損益計算書

(単位：百万円)

	2018年度中間期 (2018年4月1日から2018年9月30日まで)	2019年度中間期 (2019年4月1日から2019年9月30日まで)
経常収益	58,535	60,547
資金運用収益	40,623	40,095
うち貸出金利息	22,891	22,759
うち有価証券利息配当金	16,833	16,210
信託報酬	-	3
役務取引等収益	9,875	9,619
その他業務収益	3,593	5,948
その他経常収益	4,442	4,879
経常費用	41,594	42,396
資金調達費用	3,726	4,795
うち預金利息	1,983	2,771
役務取引等費用	3,547	3,787
その他業務費用	2,617	2,957
営業経費	30,888	29,846
その他経常費用	813	1,010
経常利益	16,941	18,151
特別利益	0	-
固定資産処分益	0	-
特別損失	133	212
固定資産処分損	133	85
減損損失	-	126
金融商品取引責任準備金繰入額	0	0
税金等調整前中間純利益	16,808	17,938
法人税、住民税及び事業税	4,640	3,816
法人税等調整額	96	1,205
法人税等合計	4,737	5,021
中間純利益	12,071	12,917
非支配株主に帰属する中間純利益	47	43
親会社株主に帰属する中間純利益	12,023	12,874

## ●中間連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	2018年度中間期 (2018年4月1日から2018年9月30日まで)	2019年度中間期 (2019年4月1日から2019年9月30日まで)
中間純利益	12,071	12,917
その他の包括利益	△8,480	41,886
その他有価証券評価差額金	△9,769	49,077
繰延ヘッジ損益	1,092	△7,285
退職給付に係る調整額	197	93
中間包括利益	3,590	54,804
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	3,583	54,722
非支配株主に係る中間包括利益	6	81

## ●中間連結株主資本等変動計算書

2018年度中間期 (2018年4月1日から2018年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	42,103	34,332	336,148	△1,813	410,771
当中間期変動額					
剰余金の配当			△2,265		△2,265
親会社株主に帰属する中間純利益			12,023		12,023
自己株式の取得				△3	△3
自己株式の処分		△0		5	5
株主資本以外の項目の当中間期変動額 (純額)					
当中間期変動額合計	-	△0	9,758	2	9,759
当中間期末残高	42,103	34,331	345,906	△1,811	420,530

	その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	523,550	△1,382	△13	△3,318	518,836	511	2,246	932,365
当中間期変動額								
剰余金の配当								△2,265
親会社株主に帰属する中間純利益								12,023
自己株式の取得								△3
自己株式の処分								5
株主資本以外の項目の当中間期変動額 (純額)	△9,728	1,092	-	197	△8,439	39	3	△8,396
当中間期変動額合計	△9,728	1,092	-	197	△8,439	39	3	1,362
当中間期末残高	513,822	△290	△13	△3,121	510,396	550	2,250	933,728

2019年度中間期 (2019年4月1日から2019年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	42,103	34,331	363,391	△1,815	438,011
当中間期変動額					
剰余金の配当			△5,285		△5,285
親会社株主に帰属する中間純利益			12,874		12,874
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分		△71		267	196
土地再評価差額金の取崩			23		23
株主資本以外の項目の当中間期変動額 (純額)					
当中間期変動額合計	-	△71	7,611	266	7,807
当中間期末残高	42,103	34,260	371,003	△1,548	445,819

	その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	418,582	△5,026	△105	△3,341	410,109	598	2,215	850,934
当中間期変動額								
剰余金の配当								△5,285
親会社株主に帰属する中間純利益								12,874
自己株式の取得								△0
自己株式の処分								196
土地再評価差額金の取崩								23
株主資本以外の項目の当中間期変動額 (純額)	49,039	△7,285	△23	93	41,824	△152	78	41,751
当中間期変動額合計	49,039	△7,285	△23	93	41,824	△152	78	49,559
当中間期末残高	467,622	△12,311	△128	△3,247	451,934	446	2,293	900,493

## ●中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2018年度中間期 (2018年4月1日から2018年9月30日まで)	2019年度中間期 (2019年4月1日から2019年9月30日まで)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益	16,808	17,938
減価償却費	2,090	1,818
減損損失	-	126
持分法による投資損益 (△は益)	3	△5
貸倒引当金の増減 (△)	△503	△1,915
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△16	△143
偶発損失引当金の増減額 (△は減少)	△143	76
資金運用収益	△40,623	△40,095
資金調達費用	3,726	4,795
有価証券関係損益 (△)	△2,649	△4,705
金銭の信託の運用損益 (△は運用益)	△82	△49
為替差損益 (△は益)	△7,368	5,271
固定資産処分損益 (△は益)	133	85
商品有価証券の純増 (△) 減	△41	△39
貸出金の純増 (△) 減	△124,733	△42,468
預金の純増減 (△)	99,996	△117,764
譲渡性預金の純増減 (△)	△65,953	125,347
借入金 (劣後特約付借入金を除く) の純増減 (△)	△19,159	△878
預け金 (日銀預け金を除く) の純増 (△) 減	△3,315	1,327
コールローン等の純増 (△) 減	△23,886	58,184
コールマネー等の純増減 (△)	△6,117	△9,989
債券貸借取引受入担保金の純増減 (△)	28,203	△226,091
外国為替 (資産) の純増 (△) 減	△8,060	32,559
外国為替 (負債) の純増減 (△)	△31	149
リース債権及びリース投資資産の純増 (△) 減	△240	△1,592
信託勘定借の純増減 (△)	-	1,006
資金運用による収入	41,867	42,164
資金調達による支出	△3,115	△4,395
その他	△504	17,913
小計	△113,716	△141,367
法人税等の支払額	△2,306	△11,221
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△116,022</b>	<b>△152,589</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	△379,084	△386,824
有価証券の売却による収入	159,330	196,665
有価証券の償還による収入	211,827	255,295
金銭の信託の減少による収入	18,033	17,074
有形固定資産の取得による支出	△1,319	△391
有形固定資産の売却による収入	0	-
無形固定資産の取得による支出	△481	△685
その他	△19	△55
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>8,286</b>	<b>81,078</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
劣後特約付借入金の返済による支出	△16,000	-
配当金の支払額	△2,265	△5,285
非支配株主への配当金の支払額	△3	△3
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△18,268</b>	<b>△5,288</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	5	△1
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△125,998	△76,800
現金及び現金同等物の期首残高	844,950	898,633
現金及び現金同等物の中間期末残高	718,951	821,832

## [注記事項] (2019年度中間期)

(中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

### 1. 連結の範囲に関する事項

#### (1) 連結子会社 7社

会社名

烏丸商事株式会社

京銀リース・キャピタル株式会社

京銀カードサービス株式会社

京銀証券株式会社

京都信用保証サービス株式会社

京都クレジットサービス株式会社

株式会社京都総合経済研究所

#### (2) 非連結子会社 2社

会社名

京銀輝く未来応援ファンド投資事業有限責任組合

京銀輝く未来応援ファンド2号投資事業有限責任組合

非連結子会社は、その資産、経常収益、中間純損益（持分に見合う額）、利益剰余金（持分に見合う額）及びその他の包括利益累計額（持分に見合う額）等からみて、連結の範囲から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除外しております。

### 2. 持分法の適用に関する事項

#### (1) 持分法適用の非連結子会社

該当ありません。

#### (2) 持分法適用の関連会社 1社

会社名

スカイオーシャン・アセットマネジメント株式会社

#### (3) 持分法非適用の非連結子会社 2社

会社名

京銀輝く未来応援ファンド投資事業有限責任組合

京銀輝く未来応援ファンド2号投資事業有限責任組合

#### (4) 持分法非適用の関連会社 1社

会社名

きょうと農林漁業成長支援ファンド投資事業有限責任組合

持分法非適用の非連結子会社及び関連会社は、中間純損益（持分に見合う額）、利益剰余金（持分に見合う額）及びその他の包括利益累計額（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても中間連結財務諸表に重要な影響を与えないため、持分法の対象から除いております。

### 3. 連結子会社の中間決算日等に関する事項

連結子会社の中間決算日は次のとおりであります。 9月末日 7社

### 4. 開示対象特別目的会社に関する事項

該当事項はありません。

### 5. 会計方針に関する事項

#### (1) 商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法（売却原価は移動平均法により算定）により行っております。

#### (2) 有価証券の評価基準及び評価方法

① 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、その他有価証券については原則として中間連結決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は移動平均法により算定）、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

② 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。

#### (3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

#### (4) 固定資産の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産

当行の有形固定資産は、定率法（ただし、1998年4月1日以後に取得した建物（建物附属設備を除く。）並びに2016年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法）を採用し、年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建 物：8年～50年 その他：3年～20年

連結子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主として定率法により償却しております。

##### ② 無形固定資産

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び連結子会社で定める利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。

#### (5) 貸倒引当金の計上基準

当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という。）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

破綻懸念先及び貸出条件緩和債権等を有する債務者で、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額が一定額以上の債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを当初の約定利率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額を貸倒引当金とする方法（キャッシュ・フロー見積法）により計上しております。

上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績率から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認められた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。

#### (6) 睡眠預金戻戻損失引当金の計上基準

睡眠預金戻戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。

#### (7) 偶発損失引当金の計上基準

偶発損失引当金は、責任共有制度に基づく信用保証協会への負担金の支払い等に備えるため、将来の負担金支払見込額を計上しております。

#### (8) 特別法上の引当金の計上基準

特別法上の引当金は、金融商品取引責任準備金であり、証券事故による損失に備えるため、連結子会社が金融商品取引法第46条の5第1項及び金融商品取引業等に関する内閣府令第175条の規定に定めるところにより算出した額を計上しております。

#### (9) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間連結会計期間末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。また、数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

数理計算上の差異：各連結会計年度の発生時の従業員の前平均残存勤務期間内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生した連結会計年度から損益処理

なお、連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る当中間連結会計期間末の自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

#### (10) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

当行及び連結子会社の外貨建資産・負債は、中間連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。

#### (11) 重要なヘッジ会計の方法

##### ① 金利リスク・ヘッジ

当行の金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、ヘッジ対象とヘッジ手段を紐付けする方法のほか、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 2002年2月13日）に規定する繰延ヘッジ（キャッシュ・フローを固定するヘッジ）によっております。ヘッジ有効性評価の方法については、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。

##### ② 為替変動リスク・ヘッジ

当行の外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 2002年7月29日）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

連結子会社については、当中間連結決算日現在、該当事項ありません。

(12) 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲  
中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、中間連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び日本銀行への預け金であります。

#### (13) 消費税等の会計処理

当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

### (中間連結貸借対照表関係)

#### 1. 非連結子会社及び関連会社の株式又は出資金の総額

株 式 76百万円

出 資 金 1,445百万円

2. 無担保の消費貸借契約（債券貸借取引）により貸し付けている有価証券が、「有価証券」中の国債に含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

40,990百万円

3. 貸出金のうち破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。

破綻先債権額 4,110百万円

延滞債権額 62,056百万円

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（1965年政令第97号）第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

4. 貸出金のうち3か月以上延滞債権額は次のとおりであります。

3か月以上延滞債権額 505百万円

なお、3か月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

5. 貸出金のうち貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。

貸出条件緩和債権額 6,803百万円

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3か月以上延滞債権に該当しないものであります。

6. 破綻先債権額、延滞債権額、3か月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。

合計額 73,475百万円

なお、上記3.から6.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

7. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 2002年2月13日)に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形及び買入外国為替は、売却又は担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

18,265百万円

8. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産

有価証券 292,124百万円

担保資産に対応する債務

債券貸借取引受入担保金 216,250百万円

借入金 56,708百万円

預金 33,588百万円

上記のほか、為替決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、次のものを差し入れております。

有価証券 360,323百万円

また、その他資産には、金融商品等差入担保金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

金融商品等差入担保金 56,732百万円

保証金 1,742百万円

9. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高 1,545,263百万円

うち原契約期間が1年以内のもの又は任意の時期に無条件で取消可能なもの

1,459,017百万円

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行及び連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行及び連結子会社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内(社内)手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

10. 土地の再評価に関する法律(1998年3月31日公布法律第34号)に基づき、当行の事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金資産」として資産の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日

2002年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(1998年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額(路線価)に基づいて、奥行価格補正、時点修正等の合理的な調整を行って算出。

11. 有形固定資産の減価償却累計額

減価償却累計額 82,988百万円

12. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額

31,843百万円

13. 元本補填契約のある信託の元本金額は、次のとおりであります。

金銭信託 1,523百万円

#### (中間連結損益計算書関係)

1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

株式等売却益 2,879百万円

貸倒引当金戻入益 604百万円

2. 営業経費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

給料・手当 12,250百万円

3. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

株式等売却損 417百万円

#### (中間連結株主資本等変動計算書関係)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位:千株)

	当連結会計年度 期首株式数	当中間連結会計 期間増加株式数	当中間連結会計 期間減少株式数	当中間連結会計 期間末株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	75,840	-	-	75,840	
自己株式					
普通株式	332	0	49	283	(注)

(注) 自己株式の増加は、単元未満株式の買取りによる取得であり、減少は新株予約権(ストック・オプション)の権利行使による譲渡であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権 の内訳	新株予約権の 目的となる 株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)		当中間連結 会計期末 残高 (百万円)	摘要
			当連結会計 年度期首	当中間連結会計 期間 増加 減少 会計期末		
当行	ストック・ オプション としての新 株予約権		—		446	

3. 配当に関する事項

- (1) 当中間連結会計期間中の配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	5,285	(注) 70.00	2019年3月31日	2019年6月28日

(注) 1株当たり配当額のうち、40円は特別配当であります。

- (2) 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年11月14日 取締役会	普通株式	2,266	その他利益 剰余金	30.00	2019年9月30日	2019年12月2日

#### (中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金預け金勘定	853,050百万円
預け金(日銀預け金を除く)	△31,218百万円
現金及び現金同等物	821,832百万円

#### (リース取引関係)

- 借手側

1. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

1年内	245百万円
1年超	1,607百万円
合計	1,852百万円

- 貸手側

1. ファイナンス・リース取引

- (1) リース投資資産の内訳

リース料債権部分	13,497百万円
見積残存価額部分	6百万円
受取利息相当額	△1,242百万円
合計	12,261百万円

- (2) リース債権及びリース投資資産に係るリース料債権部分の中間連結決算日後の回収予定額

(単位:百万円)

	リース債権	リース投資資産に係る リース料債権部分
1年以内	108	3,935
1年超2年以内	93	3,268
2年超3年以内	61	2,565
3年超4年以内	34	1,897
4年超5年以内	17	1,120
5年超	10	709

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

1年内	9百万円
1年超	0百万円
合計	9百万円

(金融商品関係)

金融商品の時価等に関する事項

中間連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、中間連結貸借対照表計上額の重要性が乏しい科目については、記載を省略しております。また、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含めておりません(注2)参照。

(単位:百万円)

	中間連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金預け金	853,050	853,050	-
(2) 有価証券			
満期保有目的の債券	5,007	5,029	21
その他有価証券	2,903,652	2,903,652	-
(3) 貸出金	5,521,858		
貸倒引当金(*1)	△20,148		
	5,501,710	5,526,721	25,011
資産計	9,263,421	9,288,454	25,033
(1) 預金	6,968,666	6,968,924	257
(2) 譲渡性預金	1,069,407	1,069,400	△6
(3) 債券貸借取引受入担保金	216,250	216,250	-
負債計	8,254,324	8,254,575	251
デリバティブ取引(*2)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	242	242	-
ヘッジ会計が適用されているもの	△17,358	△17,358	-
デリバティブ取引計	△17,115	△17,115	-

- (\*1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。  
 (\*2) その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 現金預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。満期のある預け金についても、約定期間が短期間(1年以内)であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(2) 有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。投資信託は、公表されている基準価格によっております。

自行保証付私募債は、内部格付、期間に基づく区分ごとに元利息の合計額を同様に新規に発行を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。

なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「(有価証券関係)」に記載しております。

(3) 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、貸出金の種類及び内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利息の合計額を同様の新規貸出を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。なお、約定期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は中間連結決算日における中間連結貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。

貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。

負債

(1) 預金、及び(2) 譲渡性預金

要求払預金については、中間連結決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしております。また、定期預金及び譲渡性預金の時価は、一定の期間ごとに区分して、将来のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定しております。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。なお、預入期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(3) 債券貸借取引受入担保金

債券貸借取引受入担保金は、約定期間が短期間(1年以内)であり、時価が帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引については、「(デリバティブ取引関係)」に記載しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の中間連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「資産(2) その他有価証券」には含まれておりません。

(単位:百万円)

区分	2019年9月30日
①非上場株式(*1)(*2)	3,326
②非上場その他の証券(*3)	7,952
合計	11,278

(\*1) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしていません。

(\*2) 当中間連結会計期間において、非上場株式について、0百万円減損処理を行っております。

(\*3) 非上場その他の証券のうち、ベンチャーファンド出資金など時価を把握することが極めて困難と認められるもので構成されているものについては、時価開示の対象とはしていません。

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

	種類	中間連結貸借対照表計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
時価が中間連結貸借対照表計上額を超えるもの	国債	-	-	-
	地方債	2,501	2,515	13
	短期社債	-	-	-
	社債	2,506	2,514	8
	その他	-	-	-
	外国債券	-	-	-
	その他	-	-	-
小計	5,007	5,029	21	
時価が中間連結貸借対照表計上額を超えないもの	国債	-	-	-
	地方債	-	-	-
	短期社債	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	外国債券	-	-	-
	その他	-	-	-
小計	-	-	-	
合計		5,007	5,029	21

2. その他有価証券

	種類	中間連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	781,618	151,034	630,583
	債券	1,729,600	1,706,793	22,807
	国債	409,923	400,407	9,516
	地方債	624,189	616,925	7,264
	短期社債	-	-	-
	社債	695,487	689,460	6,026
	その他	234,635	209,243	25,391
	外国債券	161,467	147,919	13,548
	その他	73,167	61,324	11,842
	小計	2,745,854	2,067,072	678,781
中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	11,997	15,266	△3,268
	債券	70,091	70,283	△192
	国債	6,490	6,517	△27
	地方債	35,305	35,336	△31
	短期社債	-	-	-
	社債	28,296	28,430	△134
	その他	75,709	79,060	△3,351
	外国債券	12,723	12,734	△10
その他	62,985	66,326	△3,341	
小計	157,798	164,611	△6,813	
合計	2,903,652	2,231,683	671,968	

3. 減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券（時価を把握することが極めて困難なものを除く）のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって中間連結貸借対照表計上額とするともに、評価差額を当中間連結会計期間の損失として処理（以下「減損処理」という。）しております。

当中間連結会計期間における減損処理額は、3百万円（すべて社債）であります。また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社の区分毎に以下のとおり定めております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先	時価が取得原価に比べ下落
要注意先	時価が取得原価に比べ30%以上下落
正常先	時価が取得原価に比べ50%以上下落又は、時価が取得原価に比べ30%以上50%未満下落したもので市場価格が一定水準以下で推移している場合等

なお、破綻先とは、破産、特別清算、会社更生、民事再生、手形交換所における取引停止処分等、法的・形式的に経営破綻の事実が発生している発行会社、実質破綻先とは、実質的に経営破綻に陥っている発行会社であります。破綻懸念先とは、今後、経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる発行会社、要注意先とは、今後の管理に注意を要する発行会社であります。正常先とは、上記破綻先、実質破綻先、破綻懸念先、及び要注意先以外の発行会社であります。

(金銭の信託関係)

1. 満期保有目的の金銭の信託  
該当ありません。
2. その他の金銭の信託（運用目的及び満期保有目的以外）  
該当ありません。

(その他有価証券評価差額金)

中間連結貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりであります。

(単位：百万円)	
	金額
評価差額	671,968
その他有価証券	671,968
その他の金銭の信託	-
(△) 繰延税金負債	△204,032
(△) その他	△54
その他有価証券評価差額金（持分相当額調整前）	467,881
(△) 非支配株主持分相当額	△259
(+) 持分法適用会社が所有するその他有価証券に係る評価差額金のうち親会社持分相当額	-
その他有価証券評価差額金	467,622

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引  
ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの中間連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

区分	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超のもの (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
金融商品 取引所	金利先物				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	金利オプション				
店頭	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	金利先渡契約				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	金利スワップ				
	受取固定・支払変動	30,403	23,005	733	733
	受取変動・支払固定	30,403	23,005	△451	△451
	受取変動・支払変動	-	-	-	-
	金利オプション				
店頭	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	その他				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	合計	-	-	281	281

- (注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
2. 時価の算定  
取引所取引については、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引については、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

(2) 通貨関連取引

区分	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超のもの (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
金融商品 取引所	通貨先物				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	通貨オプション				
店頭	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	通貨スワップ				
	為替予約				
	売建	28,936	1,623	△311	△311
	買建	32,176	1,392	376	376
	通貨オプション				
	売建	36,335	10,943	△703	180
	買建	36,335	10,943	703	48
	その他				
店頭	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
合計	-	-	64	293	

- (注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
2. 時価の算定  
割引現在価値等により算定しております。

(3) 株式関連取引

区分	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超のもの (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
金融商品 取引所	株式指数先物				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	株式指数オプション				
店頭	売建	7,983	-	△84	1
	買建	-	-	-	-
	有価証券店頭オプション				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	有価証券店頭指数等スワップ				
	株価指数変化率受取・短期変動金利支払	-	-	-	-
	短期変動金利受取・株価指数変化率支払	-	-	-	-
	その他				
	売建	-	-	-	-
買建	-	-	-	-	
合計	-	-	△84	1	

- (注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
2. 時価の算定  
取引所取引については、大阪取引所等における最終の価格によっております。店頭取引については、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

(4) 債券関連取引

区分	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超のもの (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
金融商品 取引所	債券先物				
	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	債券先物オプション				
店頭	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
	債券店頭オプション				
	売建	5,000	-	△19	20
	買建	-	-	-	-
	その他				
店頭	売建	-	-	-	-
	買建	-	-	-	-
合計	-	-	△19	20	

- (注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
2. 時価の算定  
取引所取引については、大阪取引所等における最終の価格によっております。店頭取引については、オプション価格計算モデル等により算定しております。



- (5) 商品関連取引  
該当ありません。
- (6) クレジット・デリバティブ取引  
該当ありません。
- (7) その他

区分	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超のもの (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
店頭	地震デリバティブ				
	売建	1,750	—	△23	—
	買建	1,750	—	23	—
合計		—	—	—	—

(注) 時価については、契約期間、その他当該取引に係る契約を構成する要素を勘案し、当該帳簿価額を記載しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごと、ヘッジ会計の方法別の中間連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超のもの (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	金利スワップ				
	受取固定・支払変動	貸出金、その他有価証券	—	—	—
	受取変動・支払固定	(債券、預金等の有利息の金融資産・負債)	133,784	113,699	△17,814
	金利先物		—	—	—
	金利オプション		—	—	—
	その他		—	—	—
金利スワップの特例処理	金利スワップ				
	受取固定・支払変動	—	—	—	—
	受取変動・支払固定	—	—	—	—
合計		—	—	—	△17,814

(注) 1. ヘッジ対象とヘッジ手段を紐付けする方法のほか、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 2002年2月13日)に基づき、繰延ヘッジ(キャッシュ・フローを固定するヘッジ)によっております。

2. 時価の算定

取引所取引については、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引については、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

(2) 通貨関連取引

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超のもの (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	通貨スワップ		30,798	10,294	456
	為替予約	外貨建の有価証券等	—	—	—
	その他		—	—	—
為替予約等の振当処理	通貨スワップ	—	—	—	—
	為替予約	—	—	—	—
合計		—	—	—	456

(注) 1. 主として「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 2002年7月29日)に基づき、繰延ヘッジによっております。

2. 時価の算定

割引現在価値等により算定しております。

(3) 株式関連取引

該当ありません。

(4) 債券関連取引

該当ありません。

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションにかかる費用計上額及び科目名  
営業経費 44百万円

2. スtock・オプションの内容

	2019年ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当行の取締役(社外取締役を除く)7名 当行の執行役員10名
株式の種類別のストック・オプションの付与数(注)	普通株式 21,220株
付与日	2019年7月30日
権利確定条件	権利確定条件は定めていない
対象勤務期間	対象勤務期間は定めていない
権利行使期間	2019年7月31日から2049年7月30日まで
権利行使価格	1株当たり 1円
付与日における公正な評価単価	1株当たり 3,917円

(注) 株式数に換算して記載しております。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額  
1株当たり純資産額 11,881円77銭
2. 1株当たり中間純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり中間純利益及び算定上の基礎
- (1) 1株当たり中間純利益  
(算定上の基礎)  
親会社株主に帰属する中間純利益 12,874百万円  
普通株主に帰属しない金額 -百万円  
普通株式に係る親会社株主に帰属する中間純利益 12,874百万円  
普通株式の期中平均株式数 75,534千株
- (2) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益  
(算定上の基礎)  
親会社株主に帰属する中間純利益調整額 -百万円  
普通株式増加数 104千株  
うち新株予約権 104千株  
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり中間純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要 -

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## セグメント情報等

### ●セグメント情報

#### 1. 報告セグメントの概要

当行グループの報告セグメントは、当行グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当行グループは、銀行業を中心とした金融サービスに係る事業を行っております。なお、グループ各社が営む銀行業以外の事業については、重要性が乏しいことから、銀行業のみを報告セグメントとしております。

銀行業は、預金業務、貸出業務、商品有価証券売買業務、有価証券投資業務、国内為替業務、外国為替業務等を行っております。

#### 2. 報告セグメントごとの経常収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、「中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、経常利益ベースの数値であります。

#### 3. 報告セグメントごとの経常収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前中間連結会計期間（自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント 銀行業	その他	合計	調整額	中間連結財務 諸表計上額
経常収益					
外部顧客に対する 経常収益	53,206	5,234	58,440	95	58,535
セグメント間の 内部経常収益	496	975	1,471	△1,471	-
計	53,702	6,210	59,912	△1,376	58,535
セグメント利益	15,547	1,407	16,955	△13	16,941
セグメント資産	9,490,863	55,680	9,546,544	△45,534	9,501,009
セグメント負債	8,570,496	29,055	8,599,552	△32,270	8,567,281
その他の項目					
減価償却費	2,042	48	2,090	-	2,090
資金運用収益	40,584	73	40,657	△33	40,623
資金調達費用	3,722	24	3,747	△20	3,726
持分法投資損失	-	3	3	-	3
持分法適用会社への投資額	-	72	72	-	72
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,764	36	1,800	-	1,800

(注) 1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。また、差異調整につきましては、経常収益と中間連結損益計算書の経常収益計上額との差異について記載しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、信用保証業、リース業、クレジットカード業、証券業等を含んでおります。

3. 調整額は、次のとおりであります。

(1) 外部顧客に対する経常収益の調整額95百万円は、貸倒引当金戻入益の調整であります。

(2) セグメント利益の調整額△13百万円は、セグメント間取引消去であります。

(3) セグメント資産の調整額△45,534百万円は、セグメント間取引消去等であります。

(4) セグメント負債の調整額△32,270百万円には、セグメント間取引消去△35,392百万円及び退職給付に係る負債の調整額3,121百万円が含まれております。

(5) 資金運用収益の調整額△33百万円は、セグメント間取引消去であります。

(6) 資金調達費用の調整額△20百万円は、セグメント間取引消去であります。

4. セグメント利益は、中間連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

当中間連結会計期間（自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント 銀行業	その他	合計	調整額	中間連結財務 諸表計上額
経常収益					
外部顧客に対する 経常収益	55,177	5,363	60,541	6	60,547
セグメント間の 内部経常収益	499	849	1,348	△1,348	-
計	55,676	6,213	61,889	△1,341	60,547
セグメント利益	16,833	1,329	18,163	△12	18,151
セグメント資産	9,523,744	61,603	9,585,348	△48,573	9,536,774
セグメント負債	8,637,773	33,708	8,671,481	△35,200	8,636,280
その他の項目					
減価償却費	1,762	55	1,818	-	1,818
資金運用収益	40,060	69	40,130	△34	40,095
資金調達費用	4,792	23	4,816	△21	4,795
持分法投資利益	-	5	5	-	5
持分法適用会社への投資額	-	76	76	-	76
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,010	65	1,076	-	1,076

(注) 1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。また、差異調整につきましては、経常収益と中間連結損益計算書の経常収益計上額との差異について記載しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、信用保証業、リース業、クレジットカード業、証券業等を含んでおります。

3. 調整額は、次のとおりであります。

(1) 外部顧客に対する経常収益の調整額6百万円は、貸倒引当金戻入益の調整であります。

(2) セグメント利益の調整額△12百万円は、セグメント間取引消去であります。

(3) セグメント資産の調整額△48,573百万円は、セグメント間取引消去等であります。

(4) セグメント負債の調整額△35,200百万円には、セグメント間取引消去△38,448百万円及び退職給付に係る負債の調整額3,247百万円が含まれております。

(5) 資金運用収益の調整額△34百万円は、セグメント間取引消去であります。

(6) 資金調達費用の調整額△21百万円は、セグメント間取引消去であります。

4. セグメント利益は、中間連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

### ●関連情報

前中間連結会計期間（自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）

#### 1. サービスごとの情報 (単位：百万円)

	貸出業務	有価証券投資業務	その他	合計
外部顧客に対する 経常収益	23,375	20,102	15,057	58,535

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

#### 2. 地域ごとの情報

##### (1) 経常収益

当行グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が中間連結損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

##### (2) 有形固定資産

当行グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が中間連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

#### 3. 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で中間連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

当中間連結会計期間（自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）

#### 1. サービスごとの情報 (単位：百万円)

	貸出業務	有価証券投資業務	その他	合計
外部顧客に対する 経常収益	23,241	21,503	15,802	60,547

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

#### 2. 地域ごとの情報

##### (1) 経常収益

当行グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が中間連結損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

##### (2) 有形固定資産

当行グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が中間連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

#### 3. 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で中間連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

### ●報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

### ●報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

### ●報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

## 中間財務諸表

当行の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書及び中間株主資本等変動計算書は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任監査法人トーマツの監査証明を受けております。以下の中間貸借対照表、中間損益計算書及び中間株主資本等変動計算書は、上記の中間財務諸表に基づいて作成しております。

### ●中間貸借対照表

	(単位：百万円)			(単位：百万円)	
	2018年度 中間期 (2018年9月30日現在)	2019年度 中間期 (2019年9月30日現在)		2018年度 中間期 (2018年9月30日現在)	2019年度 中間期 (2019年9月30日現在)
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
現金預け金	730,181	850,001	預金	6,985,118	6,975,414
コールローン	71,278	38,924	譲渡性預金	874,699	1,090,907
買入金銭債権	7,521	7,317	コールマネー	20,442	-
商品有価証券	166	184	債券貸借取引受入担保金	331,564	216,250
金銭の信託	30,080	13,048	借入金	74,562	56,734
有価証券	3,083,482	2,923,431	外国為替	179	363
貸出金	5,399,172	5,531,510	信託勘定借	-	1,524
外国為替	28,667	9,970	その他負債	26,182	65,268
その他資産	54,248	66,944	未払法人税等	2,971	2,142
その他の資産	54,248	66,944	リース債務	8	3
有形固定資産	77,686	75,226	資産除去債務	312	326
無形固定資産	2,733	3,093	その他の負債	22,889	62,796
再評価に係る繰延税金資産	5	56	退職給付引当金	25,385	25,296
支払承諾見返	23,736	21,934	睡眠預金払戻損失引当金	336	753
貸倒引当金	△18,098	△17,902	偶発損失引当金	773	948
			繰延税金負債	207,517	182,379
			支払承諾	23,736	21,934
			<b>負債の部合計</b>	<b>8,570,496</b>	<b>8,637,773</b>
			<b>純資産の部</b>		
			資本金	42,103	42,103
			資本剰余金	30,615	30,544
			資本準備金	30,301	30,301
			その他資本剰余金	314	243
			利益剰余金	335,588	359,406
			利益準備金	17,456	17,456
			その他利益剰余金	318,132	341,950
			別途積立金	301,875	324,375
			繰越利益剰余金	16,257	17,575
			自己株式	△1,811	△1,548
			<b>株主資本合計</b>	<b>406,496</b>	<b>430,506</b>
			その他有価証券評価差額金	513,623	467,458
			繰延ヘッジ損益	△290	△12,311
			土地再評価差額金	△13	△128
			<b>評価・換算差額等合計</b>	<b>513,319</b>	<b>455,017</b>
			新株予約権	550	446
			<b>純資産の部合計</b>	<b>920,367</b>	<b>885,971</b>
<b>資産の部合計</b>	<b>9,490,863</b>	<b>9,523,744</b>	<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>9,490,863</b>	<b>9,523,744</b>

●中間損益計算書

(単位：百万円)

	2018年度中間期 (2018年4月1日から 2018年9月30日まで)	2019年度中間期 (2019年4月1日から 2019年9月30日まで)
経常収益	53,702	55,676
資金運用収益	40,584	40,060
うち貸出金利息	22,869	22,741
うち有価証券利息配当金	16,817	16,195
信託報酬	-	3
役務取引等収益	8,254	7,918
その他業務収益	499	2,799
その他経常収益	4,364	4,894
経常費用	38,154	38,842
資金調達費用	3,722	4,792
うち預金利息	1,983	2,771
役務取引等費用	3,576	3,766
その他業務費用	297	589
営業経費	29,774	28,701
その他経常費用	782	991
経常利益	15,547	16,833
特別利益	-	331
特別損失	133	211
税引前中間純利益	15,414	16,953
法人税、住民税及び事業税	4,264	3,339
法人税等調整額	△36	1,205
法人税等合計	4,228	4,544
中間純利益	11,185	12,409

●中間株主資本等変動計算書

2018年度中間期 (2018年4月1日から2018年9月30日まで)

(単位:百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金		利益剰余金 合計
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計		別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	42,103	30,301	315	30,616	17,456	287,875	21,337	326,668
当中間期変動額								
剰余金の配当							△2,265	△2,265
別途積立金の積立						14,000	△14,000	-
中間純利益							11,185	11,185
自己株式の取得								
自己株式の処分			△0	△0				
株主資本以外の項目の当中間期変動額 (純額)								
当中間期変動額合計	-	-	△0	△0	-	14,000	△5,080	8,919
当中間期末残高	42,103	30,301	314	30,615	17,456	301,875	16,257	335,588

	株主資本		評価・換算差額等				新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	△1,813	397,575	523,310	△1,382	△13	521,915	511	920,001
当中間期変動額								
剰余金の配当		△2,265						△2,265
別途積立金の積立		-						-
中間純利益		11,185						11,185
自己株式の取得	△3	△3						△3
自己株式の処分	5	5						5
株主資本以外の項目の当中間期変動額 (純額)			△9,687	1,092	-	△8,595	39	△8,556
当中間期変動額合計	2	8,921	△9,687	1,092	-	△8,595	39	365
当中間期末残高	△1,811	406,496	513,623	△290	△13	513,319	550	920,367

2019年度中間期 (2019年4月1日から2019年9月30日まで)

(単位:百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金		利益剰余金 合計
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計		別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	42,103	30,301	314	30,615	17,456	301,875	32,928	352,260
当中間期変動額								
剰余金の配当							△5,285	△5,285
別途積立金の積立						22,500	△22,500	-
中間純利益							12,409	12,409
自己株式の取得								
自己株式の処分			△71	△71				
土地再評価差額金の取崩							23	23
株主資本以外の項目の当中間期変動額 (純額)								
当中間期変動額合計	-	-	△71	△71	-	22,500	△15,353	7,146
当中間期末残高	42,103	30,301	243	30,544	17,456	324,375	17,575	359,406

	株主資本		評価・換算差額等				新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	△1,815	423,164	418,457	△5,026	△105	413,325	598	837,088
当中間期変動額								
剰余金の配当		△5,285						△5,285
別途積立金の積立		-						-
中間純利益		12,409						12,409
自己株式の取得	△0	△0						△0
自己株式の処分	267	196						196
土地再評価差額金の取崩		23						23
株主資本以外の項目の当中間期変動額 (純額)			49,000	△7,285	△23	41,692	△152	41,540
当中間期変動額合計	266	7,342	49,000	△7,285	△23	41,692	△152	48,882
当中間期末残高	△1,548	430,506	467,458	△12,311	△128	455,017	446	885,971

## [注記事項] (2019年度中間期)

### (重要な会計方針)

- 商品有価証券の評価基準及び評価方法  
商品有価証券の評価は、時価法(売却原価は移動平均法により算定)により行っております。
- 有価証券の評価基準及び評価方法  
(1) 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、子会社株式及び関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については原則として中間決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。  
なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。  
(2) 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。
- デリバティブ取引の評価基準及び評価方法  
デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。
- 固定資産の減価償却の方法  
(1) 有形固定資産(リース資産を除く)  
有形固定資産は、定率法(ただし、1998年4月1日以後に取得した建物(建物附属設備を除く。))並びに2016年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)を採用し、年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。  
また、主な耐用年数は次のとおりであります。  
建物: 8年~50年 その他: 3年~20年  
(2) 無形固定資産(リース資産を除く)  
無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。  
(3) リース資産  
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。
- 引当金の計上基準  
(1) 貸倒引当金  
貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。  
破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下「破綻懸念先」という。)に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。  
破綻懸念先及び貸出条件緩和債権等を有する債務者で、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額が一定額以上の債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを当初の約定利率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額を貸倒引当金とする方法(キャッシュ・フロー見積法)により計上しております。  
上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績率から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。  
すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。
- (2) 退職給付引当金  
退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。また、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。なお、数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。  
数理計算上の差異: 各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生時の翌事業年度から損益処理
- (3) 睡眠預金払戻損失引当金  
睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。
- (4) 偶発損失引当金  
偶発損失引当金は、責任共有制度に基づく信用保証協会への負担金の支払い等に備えるため、将来の負担金支払見込額を計上しております。
6. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準  
外貨建資産・負債については、中間決算日の為替相場による円換算額を付しております。
7. ヘッジ会計の方法  
(1) 金利リスク・ヘッジ  
金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、ヘッジ対象とヘッジ手段を紐付けする方法のほか、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 2002年2月13日)に規定する繰延ヘッジ(キャッシュ・フローを固定するヘッジ)によっております。ヘッジ有効性評価の方法については、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。  
(2) 為替変動リスク・ヘッジ  
外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 2002年7月29日)に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを軽減する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

### 8. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

- (1) 退職給付に係る会計処理  
退職給付に係る未認識数理計算上の差異の未処理額の会計処理の方法は、中間連結財務諸表における会計処理の方法と異なっております。
- (2) 消費税等の会計処理  
消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、控除対象外消費税等は当中間会計期間の費用に計上しております。

### (中間貸借対照表関係)

- 関係会社の株式又は出資金の総額  
株式 10,194百万円  
出資金 1,445百万円
- 無担保の消費貸借契約(債券貸借取引)により貸し付けている有価証券が、「有価証券」中の国債に含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。  
40,990百万円
- 貸出金のうち破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。  
破綻先債権額 3,931百万円  
延滞債権額 61,417百万円  
なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払が遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(1965年政令第97号)第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。  
また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
- 貸出金のうち3か月以上延滞債権額は次のとおりであります。  
3か月以上延滞債権額 505百万円  
なお、3か月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
- 貸出金のうち貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。  
貸出条件緩和債権額 6,802百万円  
なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3か月以上延滞債権に該当しないものであります。
- 破綻先債権額、延滞債権額、3か月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。  
合計額 72,656百万円  
なお、上記3.から6.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
- 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 2002年2月13日)に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形及び買入外国為替は、売却又は担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。  
18,265百万円
- 担保に供している資産は次のとおりであります。  
担保に供している資産  
有価証券 292,124百万円  
担保資産に対応する債務  
債券貸借取引受入担保金 216,250百万円  
借入金 56,708百万円  
預金 33,588百万円  
上記のほか、為替決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、次のものを差し入れております。  
有価証券 360,323百万円  
また、その他の資産には、金融商品等差入担保金及び保証金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。  
金融商品等差入担保金 56,732百万円  
保証金 1,733百万円
- 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。  
融資未実行残高 1,528,067百万円  
うち原契約期間が1年以内のもの又は任意の時期に無条件で取消可能なもの 1,441,821百万円  
なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。
10. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額 31,843百万円
11. 元本補填契約のある信託の元本金額は、次のとおりであります。  
金銭信託 1,523百万円

### (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 損益の状況

### ●業務粗利益等

(単位：百万円)

	2018年度中間期			2019年度中間期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
資金運用収支	35,921	941	36,862	34,704	564	35,268
資金運用収益	36,704	3,887	40,584	35,391	4,674	40,060
資金調達費用	783	2,946	3,721	687	4,110	4,791
信託報酬	-	-	-	3	-	3
役務取引等収支	4,584	92	4,677	4,035	115	4,151
役務取引等収益	8,104	149	8,254	7,742	175	7,918
役務取引等費用	3,519	57	3,576	3,706	59	3,766
その他業務収支	143	57	201	1,596	612	2,209
その他業務収益	170	328	499	2,047	751	2,799
その他業務費用	26	271	297	450	139	589
業務粗利益	40,649	1,092	41,741	40,340	1,292	41,633
業務粗利益率	1.08%	0.60%	1.07%	1.05%	0.67%	1.04%
業務純益			11,967			12,931
実質業務純益			11,967			12,931
コア業務純益			12,046			10,687
コア業務純益 (投資信託解約損益を除く)			10,559			10,279

(注) 1. 国内業務部門は円建取引、国際業務部門は外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

2. 資金調達費用は金銭の信託運用見合費用（2018年度中間期1百万円、2019年度中間期0百万円）を控除して表示しております。

3. 資金運用収益および資金調達費用の合計欄の上段の計数は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。

4. 業務粗利益率 =  $\frac{\text{業務粗利益}}{\text{資金運用勘定平均残高}} \times \frac{\text{年間日数 (365日)}}{\text{期中日数 (183日)}} \times 100$

5. 当行は特定取引勘定非設置行であるため、特定取引収支は該当ありません。

### ●資金運用・調達勘定平均残高、利息、利回り

#### ●国内業務部門

(単位：百万円)

	2018年度中間期			2019年度中間期		
	平均残高	利息	利回り	平均残高	利息	利回り
資金運用勘定	(78,184)	(7)	0.97%	(60,867)	(6)	0.92%
うち貸出金	7,483,006	36,704	0.97%	7,660,483	35,391	0.92%
商品有価証券	5,178,695	21,234	0.81	5,337,013	20,865	0.77
有価証券	168	0	0.61	170	0	0.62
コールローン	2,164,131	15,239	1.40	2,152,694	14,307	1.32
預け金	6,765	△0	△0.00	15,699	△3	△0.05
借用金	7,669	5	0.15	27,483	29	0.21
資金調達勘定	7,827,909	783	0.01%	7,929,591	687	0.01%
うち預金	6,691,694	437	0.01	6,793,099	350	0.01
譲渡性預金	835,802	35	0.00	764,749	26	0.00
コールマネー	57,513	△22	△0.08	35,030	△11	△0.07
債券貸借取引受入担保金	200,797	10	0.00	318,369	15	0.00
借用金	71,270	16	0.04	30,222	0	0.00

(注) 1. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高（2018年度中間期639,472百万円、2019年度中間期583,841百万円）を、資金調達勘定は金銭の信託運用見合額の平均残高（2018年度中間期30,985百万円、2019年度中間期14,679百万円）および利息（2018年度中間期1百万円、2019年度中間期0百万円）を、それぞれ控除して表示しております。

2. ( ) 内は国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高および利息（内書き）であります。

●国際業務部門

(単位：百万円)

	2018年度中間期			2019年度中間期		
	平均残高	利息	利回り	平均残高	利息	利回り
資金運用勘定	360,323	3,887	2.15%	382,578	4,674	2.43%
うち貸出金	116,466	1,635	2.80	133,374	1,875	2.80
有価証券	150,357	1,577	2.09	163,611	1,886	2.30
コールローン	60,849	651	2.13	67,189	867	2.57
預け金	-	-	-	218	2	2.68
資金調達勘定	(78,184)	(7)	1.63%	(60,867)	(6)	2.14%
うち預金	360,201	2,946		381,836	4,110	
コールマネー	189,080	1,545	1.63	239,163	2,420	2.01
債券貸借取引受入担保金	15,400	193	2.50	1,696	24	2.87
借入金	63,573	649	2.03	53,071	674	2.53
借用金	13,799	161	2.33	26,862	346	2.57

- (注) 1. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高(2018年度中間期407百万円、2019年度中間期506百万円)を控除して表示しております。  
 2. ( )内は国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高および利息(内書き)であります。  
 3. 国際業務部門の外貨建取引の平均残高は月次カレント方式(前月末TT仲値を当該月のノンエクスチェンジ取引に適用する方式)により算出しております。

●合計

(単位：百万円)

	2018年度中間期			2019年度中間期		
	平均残高	利息	利回り	平均残高	利息	利回り
資金運用勘定	7,765,145	40,584	1.04%	7,982,194	40,060	1.00%
うち貸出金	5,295,161	22,869	0.86	5,470,387	22,741	0.82
商品有価証券	168	0	0.61	170	0	0.62
有価証券	2,314,489	16,817	1.44	2,316,305	16,194	1.39
コールローン	67,614	651	1.92	82,889	863	2.07
預け金	7,669	5	0.15	27,701	32	0.23
資金調達勘定	8,109,927	3,721	0.09%	8,250,561	4,791	0.11%
うち預金	6,880,775	1,983	0.05	7,032,262	2,771	0.07
譲渡性預金	835,802	35	0.00	764,749	26	0.00
コールマネー	72,913	170	0.46	36,726	13	0.07
債券貸借取引受入担保金	264,371	659	0.49	371,440	690	0.37
借入金	85,069	178	0.41	57,084	346	1.21

- (注) 1. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高(2018年度中間期639,880百万円、2019年度中間期584,348百万円)を、資金調達勘定は金銭の信託運用見合額の平均残高(2018年度中間期30,985百万円、2019年度中間期14,679百万円)および利息(2018年度中間期1百万円、2019年度中間期0百万円)を、それぞれ控除して表示しております。  
 2. 国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高および利息は、相殺して記載しております。



## ●受取・支払利息の分析

### ●国内業務部門

(単位：百万円)

	2018年度中間期			2019年度中間期		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	1,550	△395	1,155	870	△2,182	△1,312
うち貸出金	1,440	△1,943	△503	649	△1,018	△368
商品有価証券	0	0	0	0	0	0
有価証券	△15	1,643	1,627	△80	△851	△932
コールローン	2	0	2	△0	△3	△3
預け金	2	1	4	15	8	23
支払利息	49	△456	△406	10	△105	△95
うち預金	12	△31	△18	6	△94	△87
譲渡性預金	1	△6	△5	△2	△5	△8
コールマネー	4	△10	△5	8	2	11
債券貸借取引受入担保金	6	1	7	5	0	5
借入金	△79	△141	△220	△9	△7	△16

(注) 残高および利率の増減要因が重なる部分については、利率による増減に含めて記載しております。

### ●国際業務部門

(単位：百万円)

	2018年度中間期			2019年度中間期		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	337	1,036	1,373	240	546	786
うち貸出金	95	613	708	237	3	240
有価証券	△141	390	248	139	170	309
コールローン	171	244	415	67	147	215
預け金	-	-	-	-	2	2
支払利息	201	1,240	1,442	176	987	1,164
うち預金	107	596	703	409	465	875
コールマネー	△51	72	21	△172	3	△169
債券貸借取引受入担保金	98	338	437	△107	132	24
借入金	14	65	80	153	31	184

(注) 残高および利率の増減要因が重なる部分については、利率による増減に含めて記載しております。

### ●合計

(単位：百万円)

	2018年度中間期			2019年度中間期		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	1,795	732	2,528	1,134	△1,658	△523
うち貸出金	1,519	△1,314	205	756	△885	△128
商品有価証券	0	0	0	0	0	0
有価証券	△130	2,007	1,876	13	△635	△622
コールローン	△67	485	418	147	64	211
預け金	2	1	4	15	10	26
支払利息	121	914	1,035	64	1,006	1,070
うち預金	39	645	685	43	744	787
譲渡性預金	1	△6	△5	△2	△5	△8
コールマネー	△44	59	15	△84	△73	△157
債券貸借取引受入担保金	378	66	444	267	△236	30
借入金	△90	△49	△140	△58	226	168

(注) 残高および利率の増減要因が重なる部分については、利率による増減に含めて記載しております。

## ●利鞘

(単位：%)

	2018年度中間期			2019年度中間期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
資金運用利回り	0.97	2.15	1.04	0.92	2.43	1.00
資金調達原価	0.76	1.87	0.82	0.72	2.40	0.80
総資金利鞘	0.21	0.28	0.22	0.20	0.03	0.20

## ●役務取引の状況

(単位：百万円)

	2018年度中間期			2019年度中間期		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
役務取引等収益	8,104	149	8,254	7,742	175	7,918
うち預金・貸出業務	1,953	-	1,953	1,964	-	1,964
為替業務	2,229	147	2,377	2,235	173	2,409
信託関連業務	-	-	-	53	-	53
証券関連業務	157	-	157	148	-	148
代理業務	103	-	103	101	-	101
保護預り・貸金庫業務	415	-	415	418	-	418
保証業務	42	1	44	44	1	45
投資信託・保険販売業務	1,686	-	1,686	1,251	-	1,251
役務取引等費用	3,519	57	3,576	3,706	59	3,766
うち為替業務	387	34	422	407	34	441

## ●営業経費の内訳

(単位：百万円)

	2018年度中間期	2019年度中間期
給料・手当	11,978	11,733
退職給付費用	1,122	1,141
福利厚生費	249	228
減価償却費	2,042	1,762
土地建物機械賃借料	898	907
宮繕費	109	67
消耗品費	377	321
給水光熱費	268	248
旅費	43	29
通信費	614	629
広告宣伝費	359	317
租税公課	2,451	2,229
その他	9,257	9,083
計	29,774	28,701

## ●その他業務利益の内訳

(単位：百万円)

	2018年度中間期	2019年度中間期
国内業務部門	143	1,596
商品有価証券売買益	7	1
国債等債券売却損益	133	2,019
国債等債券償還損益	-	-
国債等債券償却	-	△3
金融派生商品損益	1	△420
その他	0	0
国際業務部門	57	612
外国為替売買益	270	383
国債等債券売却損益	△212	228
国債等債券償還損益	-	-
国債等債券償却	-	-
金融派生商品損益	-	-
その他	-	-

## ●業務純益

(単位：百万円)

	2018年度中間期	2019年度中間期
業務純益	11,967	12,931

(注) 業務純益は、預金、貸出金、有価証券などの利息収支を示す「資金利益」、各種手数料などの収支を示す「役務取引等利益」、債券や外国為替などの売買損益を示す「その他業務利益」の3つを合計した「業務粗利益」と、控除項目である「一般貸倒引当金繰入額」および「経費」から構成されています。なお、この「業務純益」は、銀行が一般に公表する損益計算書の様式には設けられていません。

## ●利益率

(単位：%)

	2018年度中間期	2019年度中間期
総資産経常利益率	0.36	0.38
総資産中間純利益率	0.25	0.28

(注) 1. 総資産経常(中間純)利益率 =  $\frac{\text{経常(中間純)利益}}{\text{総資産(除く支払承諾見返)平均残高}} \times \frac{\text{年間日数(365日)}}{\text{期中日数(183日)}} \times 100$

(単位：%)

	2018年度中間期	2019年度中間期
資本経常利益率	7.75	7.93
資本中間純利益率	5.58	5.84

2. 資本経常(中間純)利益率 =  $\frac{\text{経常(中間純)利益}}{\text{資本勘定平均残高}} \times \frac{\text{年間日数(365日)}}{\text{期中日数(183日)}} \times 100$

## 預金業務

### ●預金科目別残高

(単位：億円、%)

		2018年度中間期			2019年度中間期		
		国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
流動性預金	期末残高	41,529 (54.3)	- (-)	41,529 (52.8)	43,716 (55.7)	- (-)	43,716 (54.2)
	平均残高	41,157 (54.7)	- (-)	41,157 (53.4)	43,727 (57.9)	- (-)	43,727 (56.1)
うち有利息預金	期末残高	35,328 (46.2)		35,328 (45.0)	37,473 (47.7)		37,473 (46.5)
	平均残高	34,848 (46.3)		34,848 (45.2)	37,214 (49.2)		37,214 (47.7)
定期性預金	期末残高	25,770 (33.7)	- (-)	25,770 (32.8)	23,483 (29.9)	- (-)	23,483 (29.1)
	平均残高	25,327 (33.6)	- (-)	25,327 (32.8)	23,761 (31.4)	- (-)	23,761 (30.5)
うち固定金利定期預金	期末残高	25,528 (33.4)		25,528 (32.5)	23,251 (29.6)		23,251 (28.8)
	平均残高	25,089 (33.3)		25,089 (32.5)	23,535 (31.1)		23,535 (30.2)
変動金利定期預金	期末残高	0 (0.0)		0 (0.0)	1 (0.0)		1 (0.0)
	平均残高	0 (0.0)		0 (0.0)	0 (0.0)		0 (0.0)
その他の預金	期末残高	460 (0.6)	2,090 (100.0)	2,551 (3.3)	435 (0.5)	2,119 (100.0)	2,554 (3.2)
	平均残高	431 (0.6)	1,890 (100.0)	2,322 (3.0)	441 (0.6)	2,391 (100.0)	2,833 (3.6)
預金合計	期末残高	67,760 (88.6)	2,090 (100.0)	69,851 (88.9)	67,634 (86.1)	2,119 (100.0)	69,754 (86.5)
	平均残高	66,916 (88.9)	1,890 (100.0)	68,807 (89.2)	67,930 (89.9)	2,391 (100.0)	70,322 (90.2)
譲渡性預金	期末残高	8,746 (11.4)	- (-)	8,746 (11.1)	10,909 (13.9)	- (-)	10,909 (13.5)
	平均残高	8,358 (11.1)	- (-)	8,358 (10.8)	7,647 (10.1)	- (-)	7,647 (9.8)
総合計	期末残高	76,507 (100.0)	2,090 (100.0)	78,598 (100.0)	78,543 (100.0)	2,119 (100.0)	80,663 (100.0)
	平均残高	75,274 (100.0)	1,890 (100.0)	77,165 (100.0)	75,578 (100.0)	2,391 (100.0)	77,970 (100.0)

- (注) 1. 流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金  
 2. 定期性預金＝定期預金＋定期積金  
     固定金利定期預金：預入時に満期日までの利率が確定する定期預金  
     変動金利定期預金：預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する定期預金  
 3. 国際業務部門の外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。  
 4. ( ) 内は構成比

### ●定期預金の残存期間別残高

(単位：百万円)

	2018年9月30日				2019年9月30日			
	定期預金	うち固定金利 定期預金	変動金利 定期預金	その他	定期預金	うち固定金利 定期預金	変動金利 定期預金	その他
残存期間								
3か月未満	980,597	980,511	6	79	766,723	766,635	20	68
3か月以上6か月未満	442,483	442,475	8		433,235	433,226	8	
6か月以上1年未満	701,250	701,245	5		743,165	743,148	17	
1年以上2年未満	223,128	223,081	46		198,350	198,318	31	
2年以上3年未満	181,257	181,228	28		157,726	157,698	28	
3年以上	24,288	24,288	-		26,110	26,110	-	
合計	2,553,005	2,552,829	96	79	2,325,311	2,325,136	106	68

(注) 本表の預金残高には、積立定期預金を含んでおりません。

## 貸出業務

### ●貸出金科目別残高

(単位：億円、%)

		2018年度中間期			2019年度中間期		
		国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
手形貸付	期末残高	783 (1.5)	62 (4.7)	846 (1.6)	746 (1.4)	58 (4.3)	805 (1.5)
	平均残高	765 (1.5)	58 (5.0)	823 (1.6)	764 (1.4)	52 (3.9)	816 (1.5)
証書貸付	期末残高	46,524 (88.3)	1,255 (95.3)	47,779 (88.5)	47,808 (88.6)	1,297 (95.7)	49,106 (88.8)
	平均残高	46,123 (89.1)	1,106 (95.0)	47,230 (89.2)	47,359 (88.7)	1,281 (96.1)	48,640 (88.9)
当座貸越	期末残高	5,124 (9.7)	- (-)	5,124 (9.5)	5,222 (9.7)	- (-)	5,222 (9.4)
	平均残高	4,674 (9.0)	- (-)	4,674 (8.8)	5,050 (9.5)	- (-)	5,050 (9.2)
割引手形	期末残高	240 (0.5)	- (-)	240 (0.4)	180 (0.3)	- (-)	180 (0.3)
	平均残高	223 (0.4)	- (-)	223 (0.4)	196 (0.4)	- (-)	196 (0.4)
合計	期末残高	52,673 (100.0)	1,317 (100.0)	53,991 (100.0)	53,958 (100.0)	1,356 (100.0)	55,315 (100.0)
	平均残高	51,786 (100.0)	1,164 (100.0)	52,951 (100.0)	53,370 (100.0)	1,333 (100.0)	54,703 (100.0)

(注) 1. 国際業務部門の外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。  
2. ( ) 内は構成比

### ●貸出金の残存期間別残高

(単位：百万円)

	2018年9月30日			2019年9月30日		
	貸出金	うち変動金利	固定金利	貸出金	うち変動金利	固定金利
残存期間						
1年以下	641,041			679,283		
1年超3年以下	975,383	351,041	624,341	979,567	335,421	644,146
3年超5年以下	730,846	271,837	459,008	751,426	252,421	499,005
5年超7年以下	548,105	172,731	375,373	639,802	178,724	461,078
7年超	1,991,302	782,266	1,209,035	1,959,168	788,200	1,170,967
期間の定めのないもの	512,492	504,830	7,661	522,261	514,915	7,346
合計	5,399,172			5,531,510		

(注) 1. 残存期間1年以下の貸出金については、変動金利、固定金利の区別をしておりません。  
2. 残存期間別残高は、各残存期間の約定返済額により算出しております。

### ●貸出金の預金に対する比率

(単位：百万円)

	2018年9月30日			2019年9月30日		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
貸出金 (A)	5,267,374	131,797	5,399,172	5,395,864	135,646	5,531,510
預金 (B)	7,650,721	209,096	7,859,817	7,854,398	211,922	8,066,321
預貸率 (A) / (B)	68.84%	63.03%	68.69%	68.69%	64.00%	68.57%
期中平均	68.79%	61.59%	68.62%	70.61%	55.76%	70.16%

(注) 預金には、譲渡性預金を含んでおります。

●貸出金・支払承諾見返の担保別内訳

(単位：百万円)

	2018年9月30日		2019年9月30日	
	貸出金残高	支払承諾見返残高	貸出金残高	支払承諾見返残高
有価証券	3,586	3	2,801	-
債権	14,582	196	13,744	201
商品	-	-	-	-
不動産	346,648	1,506	361,527	2,105
その他	2,161	4,015	2,310	3,515
計	366,979	5,721	380,383	5,821
保証	1,730,589	2	1,764,757	270
信用	3,301,603	18,012	3,386,369	15,842
合 計	5,399,172	23,736	5,531,510	21,934

●貸出金使途別残高

(単位：百万円)

	2018年9月30日		2019年9月30日	
	貸出金残高	構成比	貸出金残高	構成比
設備資金	2,426,201	44.94%	2,528,845	45.72%
運転資金	2,972,970	55.06%	3,002,665	54.28%
合 計	5,399,172	100.00%	5,531,510	100.00%

●業種別貸出状況

(単位：百万円)

	2018年9月30日			2019年9月30日		
	貸出先数	貸出金残高	構成比	貸出先数	貸出金残高	構成比
全店分 (除く特別国際金融取引勘定分)	186,454先	5,399,172	100.00%	186,092先	5,531,510	100.00%
製造業	5,590	941,634	17.44	5,576	947,758	17.13
農業、林業	163	3,220	0.06	162	3,210	0.06
漁業	4	70	0.00	4	61	0.00
鉱業、採石業、砂利採取業	13	19,896	0.37	11	20,133	0.36
建設業	4,026	136,276	2.52	4,015	137,595	2.49
電気・ガス・熱供給・水道業	67	75,499	1.40	67	83,426	1.51
情報通信業	374	43,143	0.80	363	37,420	0.68
運輸業、郵便業	705	209,243	3.88	688	211,248	3.82
卸売業・小売業	5,968	548,972	10.17	5,742	547,188	9.89
金融業・保険業	153	203,221	3.76	146	197,290	3.57
不動産業、物品賃貸業	6,213	683,949	12.67	6,311	709,779	12.83
各種サービス業	7,948	394,936	7.32	7,962	403,435	7.29
地方公共団体	111	570,348	10.56	113	601,013	10.87
個人	155,074	1,555,706	28.81	154,874	1,614,633	29.19
その他	45	13,053	0.24	58	17,314	0.31
特別国際金融取引勘定分	-	-	-	-	-	-
政府等	-	-	-	-	-	-
金融機関	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-
合 計	186,454	5,399,172		186,092	5,531,510	

## ●中小企業等に対する貸出金

(単位：百万円)

	2018年9月30日	2019年9月30日
総貸出先数	186,454先	186,092先
うち中小企業等貸出先数 (総貸出先に占める割合)	185,666先 (99.57%)	185,297先 (99.57%)

	2018年9月30日	2019年9月30日
総貸出金残高	5,399,172	5,531,510
うち中小企業等貸出金残高 (総貸出金に占める割合)	3,569,069 (66.10%)	3,694,780 (66.79%)

(注) 1. 貸出金残高には、特別国際金融取引勘定分は含まれておりません。

2. 中小企業等とは、資本金3億円（ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円）以下の会社又は常用する従業員が300人（ただし、卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人）以下の企業等であります。

## ●住宅ローン・消費者ローン残高

(単位：百万円)

	2018年9月30日	2019年9月30日
住宅ローン	1,651,920	1,701,592
消費者ローン	29,740	32,105
合計	1,681,660	1,733,697

## ●特定海外債権残高

該当ありません。

## ●貸倒引当金残高、期中増減額

(単位：百万円)

	2018年度中間期					2019年度中間期				
	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高
			目的使用	その他				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	9,266	9,085	-	※9,266	9,085	9,125	8,874	-	※9,125	8,874
個別貸倒引当金	9,103	9,013	220	※8,883	9,013	10,629	9,028	1,259	※9,370	9,028
うち非居住者向け債権分	123	22	-	※123	22	20	19	-	※20	19
特定海外債権引当勘定	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	18,369	18,098	220	※18,149	18,098	19,754	17,902	1,259	※18,495	17,902

(注) ※は洗替による取崩額であります。

## ●貸出金償却額

(単位：百万円)

	2018年度中間期	2019年度中間期
貸出金償却額	0	0

## ●金融再生法に基づく開示債権残高

(単位：百万円)

	2018年9月30日	2019年9月30日
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	6,789	7,251
危険債権	60,883	58,146
要管理債権	6,362	7,308
正常債権	5,380,938	5,515,274

(注) 1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始・更生手続開始・再生手続開始の申立て等により経営破綻となった債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権であります。

2. 危険債権とは、債務者の財政状態および経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本および利息の受け取りができない可能性の高い債権であります。

3. 要管理債権とは、元金または利息の支払いが3か月以上延滞している債権、および債務者の再建または支援をはかり、当該債権の回収をはかることなどを目的に、債務者に有利な一定の譲歩を与える約定条件の改定等を行っている債権であります。

4. 正常債権とは、債務者の財政状態および経営成績に特に問題がないものとして、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」および「要管理債権」以外のものに区分される債権であります。

## ●リスク管理債権残高

(単位：百万円)

	連結		単体	
	2018年9月30日	2019年9月30日	2018年9月30日	2019年9月30日
破綻先債権	4,568	4,110	4,338	3,931
延滞債権	63,911	62,056	63,296	61,417
3か月以上延滞債権	15	505	15	505
貸出条件緩和債権	6,349	6,803	6,347	6,802
合計	74,844	73,475	73,998	72,656

(注) 1. リスク管理債権残高は、担保及び貸倒引当金を控除する前の金額であります。

2. 破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（1965年政令第97号）第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

3. 延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

4. 3か月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

5. 貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取り決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3か月以上延滞債権に該当しないものであります。

## 信託業務

### ●信託財産残高表

(単位：百万円)

資産	2018年9月30日	2019年9月30日	負債	2018年9月30日	2019年9月30日
銀行勘定貸	-	1,524	金銭信託	-	1,524
合計	-	1,524	合計	-	1,524

(注) 共同信託他社管理財産については、2018年9月30日および2019年9月30日のいずれも該当ありません。

### ●元本補填契約のある信託

(単位：百万円)

資産	2018年9月30日	2019年9月30日	負債	2018年9月30日	2019年9月30日
銀行勘定貸	-	1,524	元本	-	1,523
合計	-	1,524	その他	-	0
			合計	-	1,524

### ●受託残高

(単位：百万円)

	2018年9月30日	2019年9月30日
金銭信託	-	1,524

(注) 年金信託、財産形成給付信託、貸付信託については、2018年9月30日および2019年9月30日のいずれも該当ありません。

### ●信託期間別の元本残高

(単位：百万円)

		2018年9月30日	2019年9月30日
金銭信託	1年未満	-	-
	1年以上2年未満	-	-
	2年以上5年未満	-	-
	5年以上	-	1,524
	その他のもの	-	-
	合計	-	1,524

(注) 貸付信託については、2018年9月30日および2019年9月30日のいずれも該当ありません。

以下の事項に該当するものではありません。

- ①金銭信託等の種類別の貸出金及び有価証券の区分ごとの運用残高
- ②金銭信託等に係る貸出金の科目別（証書貸付、手形貸付及び割引手形の区分をいう。）の残高
- ③金銭信託等に係る貸出金の契約期間別の残高
- ④担保の種類別（有価証券、債権、商品、不動産、保証及び信用の区分をいう。）の金銭信託等に係る貸出金残高
- ⑤使途別（設備投資及び運転資金の区分をいう。）の金銭信託等に係る貸出金残高
- ⑥業種別の金銭信託等に係る貸出金残高及び貸出金の総額に占める割合
- ⑦中小企業等（資本金3億円以下の会社若しくは常時使用する従業員が300人以下の会社又は個人をいう。ただし、卸売業にあっては資本金1億円以下の会社若しくは常時使用する従業員が100人以下の会社又は個人を、サービス業にあっては資本金5千万円以下若しくは常時使用する従業員が100人以下の会社又は個人を、小売業及び飲食店にあっては資本金5千万円以下若しくは常時使用する従業員が50人以下の会社又は個人をいう。）に対する金銭信託等に係る貸出金残高及び貸出金の総額に占める割合
- ⑧金銭信託等に係る有価証券の種類別（国債、地方債、短期社債、社債及び株式その他の証券の区分をいう。）の残高
- ⑨元本補填契約のある信託に係る貸出金のうち破綻先債権、延滞債権、3か月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権に該当するものの額並びにその合計額

## 証券業務

### ●有価証券残高

(単位：億円、%)

		2018年度中間期			2019年度中間期		
		国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
国債	期末残高	5,590 (19.1)		5,590 (18.1)	4,164 (15.2)		4,164 (14.2)
	平均残高	5,449 (25.2)		5,449 (23.5)	4,725 (22.0)		4,725 (20.4)
地方債	期末残高	6,206 (21.1)		6,206 (20.1)	6,594 (24.0)		6,594 (22.6)
	平均残高	5,798 (26.8)		5,798 (25.1)	6,395 (29.7)		6,395 (27.6)
短期社債	期末残高	- (-)		- (-)	- (-)		- (-)
	平均残高	- (-)		- (-)	- (-)		- (-)
社債	期末残高	6,394 (21.8)		6,394 (20.8)	7,237 (26.3)		7,237 (24.8)
	平均残高	6,510 (30.1)		6,510 (28.1)	7,146 (33.2)		7,146 (30.9)
株式	期末残高	9,166 (31.2)		9,166 (29.7)	8,054 (29.3)		8,054 (27.5)
	平均残高	1,971 (9.1)		1,971 (8.5)	1,832 (8.5)		1,832 (7.9)
その他の証券	期末残高	1,999 (6.8)	1,477 (100.0)	3,476 (11.3)	1,428 (5.2)	1,754 (100.0)	3,182 (10.9)
	平均残高	1,910 (8.8)	1,503 (100.0)	3,413 (14.8)	1,426 (6.6)	1,636 (100.0)	3,062 (13.2)
うち外国債券	期末残高		1,477 (100.0)	1,477 (4.8)		1,754 (100.0)	1,754 (6.0)
	平均残高		1,503 (100.0)	1,503 (6.5)		1,636 (100.0)	1,636 (7.1)
外国株式	期末残高		- (-)	- (-)		- (-)	- (-)
	平均残高		- (-)	- (-)		- (-)	- (-)
合計	期末残高	29,357 (100.0)	1,477 (100.0)	30,834 (100.0)	27,479 (100.0)	1,754 (100.0)	29,234 (100.0)
	平均残高	21,641 (100.0)	1,503 (100.0)	23,144 (100.0)	21,526 (100.0)	1,636 (100.0)	23,163 (100.0)

(注) 1. 国際業務部門の外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。  
2. ( ) 内は構成比

### ●有価証券の残存期間別残高

(単位：百万円)

	2018年9月30日							
	1年以下	1年超3年以下	3年超5年以下	5年超7年以下	7年超10年以下	10年超	期間の定めのないもの	合計
国債	159,180	150,184	133,704	82,484	9,980	23,533	-	559,067
地方債	27,755	108,472	136,242	51,275	221,938	74,998	-	620,682
短期社債	-	-	-	-	-	-	-	-
社債	94,465	232,688	150,825	35,229	122,727	3,509	-	639,446
株式							916,611	916,611
その他の証券	1,528	12,421	4,895	-	52,868	77,030	198,930	347,675
うち外国債券	999	11,973	4,895	-	52,868	77,030	1	147,769
外国株式							-	-
合計	282,930	503,766	425,667	168,988	407,514	179,072	1,115,541	3,083,482
	2019年9月30日							
	1年以下	1年超3年以下	3年超5年以下	5年超7年以下	7年超10年以下	10年超	期間の定めのないもの	合計
国債	118,099	116,942	88,927	41,779	-	50,666	-	416,413
地方債	70,940	73,674	135,257	81,954	154,665	143,002	-	659,494
短期社債	-	-	-	-	-	-	-	-
社債	147,413	228,520	162,210	69,384	110,969	5,284	-	723,783
株式							805,443	805,443
その他の証券	5,995	12,521	17,729	7,468	20,662	111,487	142,431	318,296
うち外国債券	5,610	12,521	17,729	7,468	20,662	111,487	1	175,481
外国株式							-	-
合計	342,449	431,658	404,125	200,586	286,297	310,440	947,874	2,923,431



●商品有価証券平均残高

(単位：百万円)

	2018年度中間期	2019年度中間期
商品国債	23	34
商品地方債	144	136
商品政府保証債	-	-
その他の商品有価証券	-	-
合 計	168	170

●有価証券の預金に対する比率

(単位：百万円)

	2018年9月30日			2019年9月30日		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
有価証券 (A)	2,935,713	147,769	3,083,482	2,747,950	175,481	2,923,431
預 金 (B)	7,650,721	209,096	7,859,817	7,854,398	211,922	8,066,321
預証率 (A)／(B)	38.37%	70.67%	39.23%	34.98%	82.80%	36.24%
期中平均	28.74%	79.52%	29.99%	28.48%	68.40%	29.70%

(注) 預金には譲渡性預金を含んでおります。

## 有価証券関係情報

### ●有価証券関係

#### ●満期保有目的の債券

該当ありません。

#### ●子会社株式及び関連会社株式

(単位：百万円)

	2018年9月30日			2019年9月30日		
	中間貸借対照表計上額	時価	差額	中間貸借対照表計上額	時価	差額
子会社株式	-	-	-	-	-	-
関連会社株式	-	-	-	-	-	-
合計	-	-	-	-	-	-

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の中間貸借対照表計上額

(単位：百万円)

	2018年9月30日	2019年9月30日
子会社株式	10,101	10,091
関連会社株式	103	103
合計	10,204	10,194

※これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

#### ●その他有価証券

(単位：百万円)

		2018年9月30日			2019年9月30日		
		中間貸借対照表計上額	取得原価	差額	中間貸借対照表計上額	取得原価	差額
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	898,471	174,919	723,551	780,525	150,671	629,853
	債券	1,168,155	1,149,908	18,246	1,729,600	1,706,793	22,807
	国債	525,553	515,501	10,052	409,923	400,407	9,516
	地方債	282,657	277,544	5,113	624,189	616,925	7,264
	短期社債	-	-	-	-	-	-
	社債	359,944	356,863	3,080	695,487	689,460	6,026
	その他	143,462	137,417	6,044	234,635	209,243	25,391
	外国債券	29,058	28,948	109	161,467	147,919	13,548
	その他	114,403	108,469	5,934	73,167	61,324	11,842
	小計	2,210,088	1,462,246	747,842	2,744,761	2,066,708	678,052
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	5,209	5,786	△577	11,997	15,266	△3,268
	債券	651,040	654,433	△3,392	70,091	70,283	△192
	国債	33,513	34,308	△794	6,490	6,517	△27
	地方債	338,024	339,874	△1,849	35,305	35,336	△31
	短期社債	-	-	-	-	-	-
	社債	279,502	280,250	△748	28,296	28,430	△134
	その他	200,564	207,069	△6,504	75,709	79,060	△3,351
	外国債券	118,708	123,220	△4,511	12,723	12,734	△10
	その他	81,855	83,848	△1,992	62,985	66,326	△3,341
	小計	856,814	867,289	△10,474	157,798	164,611	△6,813
合計	3,066,903	2,329,535	737,367	2,902,559	2,231,319	671,239	

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券

(単位：百万円)

	2018年9月30日	2019年9月30日
	中間貸借対照表計上額	中間貸借対照表計上額
株式	2,726	2,725
その他	3,648	7,952
合計	6,374	10,678

※これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

前中間期において、非上場株式について0百万円減損処理を行っております。  
当中間期において、非上場株式について0百万円減損処理を行っております。

## ●減損処理を行った有価証券

(2018年度中間期)

売買目的有価証券以外の有価証券（時価を把握することが極めて困難なものを除く）のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって中間貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当中間期の損失として処理（以下「減損処理」という。）しております。

当中間期における減損処理額は、該当ありません。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社の区分毎に以下のとおり定めております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先	時価が取得原価に比べ下落
要注意先	時価が取得原価に比べ30%以上下落
正常先	時価が取得原価に比べ50%以上下落又は、時価が取得原価に比べ30%以上50%未満下落したもので市場価格が一定水準以下で推移している場合等

なお、破綻先とは、破産、特別清算、会社更生、民事再生、手形交換所における取引停止処分等、法的・形式的に経営破綻の事実が発生している発行会社、実質破綻先とは、実質的に経営破綻に陥っている発行会社であります。破綻懸念先とは、今後、経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる発行会社、要注意先とは、今後の管理に注意を要する発行会社であります。正常先とは、上記破綻先、実質破綻先、破綻懸念先、及び要注意先以外の発行会社であります。

(2019年度中間期)

売買目的有価証券以外の有価証券（時価を把握することが極めて困難なものを除く）のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって中間貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当中間期の損失として処理（以下「減損処理」という。）しております。

当中間期における減損処理額は、3百万円（すべて社債）であります。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社の区分毎に以下のとおり定めております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先	時価が取得原価に比べ下落
要注意先	時価が取得原価に比べ30%以上下落
正常先	時価が取得原価に比べ50%以上下落又は、時価が取得原価に比べ30%以上50%未満下落したもので市場価格が一定水準以下で推移している場合等

なお、破綻先とは、破産、特別清算、会社更生、民事再生、手形交換所における取引停止処分等、法的・形式的に経営破綻の事実が発生している発行会社、実質破綻先とは、実質的に経営破綻に陥っている発行会社であります。破綻懸念先とは、今後、経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる発行会社、要注意先とは、今後の管理に注意を要する発行会社であります。正常先とは、上記破綻先、実質破綻先、破綻懸念先、及び要注意先以外の発行会社であります。

## ●金銭の信託関係

### ●満期保有目的の金銭の信託

該当ありません。

### ●その他の金銭の信託（運用目的及び満期保有目的以外）

該当ありません。

## ●その他有価証券評価差額金

中間貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	2018年9月30日	2019年9月30日
評価差額	737,367	671,239
その他有価証券	737,367	671,239
その他の金銭の信託	-	-
(△) 繰延税金負債	△223,744	△203,781
その他有価証券評価差額金	513,623	467,458

## デリバティブ取引情報

### 1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの中間決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

#### ●金利関連取引

(単位：百万円)

区分	種 類		2018年9月30日				2019年9月30日			
			契約額等		時価	評価損益	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超				うち1年超			
金融商品取引所	金利先物	売建	-	-	-	-	-	-	-	-
		買建	-	-	-	-	-	-	-	-
	金利オプション	売建	-	-	-	-	-	-	-	-
		買建	-	-	-	-	-	-	-	-
店頭	金利先渡契約	売建	-	-	-	-	-	-	-	-
		買建	-	-	-	-	-	-	-	-
	金利スワップ	受取固定・支払変動	42,499	35,869	724	724	30,403	23,005	733	773
		受取変動・支払固定	42,499	35,869	△342	△342	30,403	23,005	△451	△451
		受取変動・支払変動	-	-	-	-	-	-	-	-
	金利オプション	売建	-	-	-	-	-	-	-	-
		買建	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他	売建	5	-	-	11	-	-	-	-
買建		5	-	-	△7	-	-	-	-	
合 計				381	386			281	281	

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引所取引については、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引については、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

#### ●通貨関連取引

(単位：百万円)

区分	種 類		2018年9月30日				2019年9月30日			
			契約額等		時価	評価損益	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超				うち1年超			
金融商品取引所	通貨先物	売建	-	-	-	-	-	-	-	-
		買建	-	-	-	-	-	-	-	-
	通貨オプション	売建	-	-	-	-	-	-	-	-
		買建	-	-	-	-	-	-	-	-
店頭	通貨スワップ		-	-	-	-	-	-	-	
	為替予約	売建	54,424	1,689	△1,322	△1,322	28,925	1,623	△311	△311
		買建	31,561	1,507	1,037	1,037	32,151	1,392	376	376
	通貨オプション	売建	32,903	11,024	△570	295	36,335	10,943	△703	180
		買建	32,903	11,024	570	△5	36,335	10,943	703	48
	その他	売建	-	-	-	-	-	-	-	-
買建		-	-	-	-	-	-	-	-	
合 計				△285	4			64	293	

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

割引現在価値等により算定しております。

## ●株式関連取引

(単位：百万円)

区分	種 類		2018年9月30日			2019年9月30日			
			契約額等	時価	評価損益	契約額等	時価	評価損益	
									うち1年超
金融商品取引所	株式指数先物	売建	-	-	-	-	-	-	
		買建	-	-	-	-	-	-	
	株式指数オプション	売建	-	-	-	7,983	-	△84	1
		買建	-	-	-	-	-	-	-
店頭	有価証券店頭オプション	売建	-	-	-	-	-	-	
		買建	-	-	-	-	-	-	
	有価証券店頭指数等スワップ	株価指数変化率受取・短期変動金利支払	-	-	-	-	-	-	
		短期変動金利受取・株価指数変化率支払	-	-	-	-	-	-	
	その他	売建	-	-	-	-	-	-	
		買建	-	-	-	-	-	-	
合 計						△84	1		

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引所取引については、大阪取引所等における最終の価格によっております。店頭取引については、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

## ●債券関連取引

(単位：百万円)

区分	種 類		2018年9月30日			2019年9月30日			
			契約額等	時価	評価損益	契約額等	時価	評価損益	
									うち1年超
金融商品取引所	債券先物	売建	-	-	-	-	-	-	
		買建	-	-	-	-	-	-	
	債券先物オプション	売建	-	-	-	-	-	-	
		買建	-	-	-	-	-	-	
店頭	債券店頭オプション	売建	-	-	-	5,000	-	△19	20
		買建	-	-	-	-	-	-	-
	その他	売建	-	-	-	-	-	-	-
		買建	-	-	-	-	-	-	-
合 計						△19	20		

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引所取引については、大阪取引所等における最終の価格によっております。店頭取引については、オプション価格計算モデル等により算定しております。

## ●商品関連取引 ●クレジット・デリバティブ取引

該当ありません。

該当ありません。

## ●その他

(単位：百万円)

区分	種 類		2018年9月30日			2019年9月30日			
			契約額等	時価	評価損益	契約額等	時価	評価損益	
									うち1年超
店頭	地震デリバティブ	売建	-	-	-	1,750	-	△23	-
		買建	-	-	-	1,750	-	23	-
合 計									

(注) 時価については、契約期間、その他当該取引に係る契約を構成する要素を勘案し、当該帳簿価額を記載しております。

## 2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごと、ヘッジ会計の方法別の中間決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

### ●金利関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類		主なヘッジ対象	2018年9月30日			2019年9月30日		
				契約額等		時価	契約額等		時価
				うち1年超			うち1年超		
原則的処理方法	金利スワップ	受取固定・支払変動	貸出金、その他有価証券(債券)、預金等の 有利利息の金融資産・負債	-	-	-	-	-	-
		受取変動・支払固定		110,994	110,994	△336	133,784	113,699	△17,814
	金利先物	-		-	-	-	-	-	
	金利オプション	-		-	-	-	-	-	
	その他		-	-	-	-	-	-	
金利スワップの特例処理	金利スワップ	受取固定・支払変動	-	-	-	-	-	-	
		受取変動・支払固定	-	-	-	-	-	-	
	合計				△336			△17,814	

(注) 1. ヘッジ対象とヘッジ手段を紐付けする方法のほか、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 2002年2月13日)に基づき、繰延ヘッジ(キャッシュ・フローを固定するヘッジ)によっております。

2. 時価の算定

取引所取引については、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引については、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

### ●通貨関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類		主なヘッジ対象	2018年9月30日			2019年9月30日		
				契約額等		時価	契約額等		時価
				うち1年超			うち1年超		
原則的処理方法	通貨スワップ		外貨建の有価証券等	28,441	15,762	△1,005	30,798	10,294	456
	為替予約			-	-	-	-	-	-
	その他			-	-	-	-	-	-
為替予約等の振当処理	通貨スワップ		-	-	-	-	-	-	
	為替予約		-	-	-	-	-	-	
	合計				△1,005			456	

(注) 1. 主として「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 2002年7月29日)に基づき、繰延ヘッジによっております。

2. 時価の算定

割引現在価値等により算定しております。

### ●株式関連取引

該当ありません。

### ●債券関連取引

該当ありません。

## 株式・資本の状況

### ●資本金の推移

(単位：百万円)

	2015年4月1日～ 2016年3月31日	2016年4月1日～ 2017年3月31日	2017年4月1日～ 2018年3月31日	2018年4月1日～ 2019年3月31日	2019年4月1日～ 2019年9月30日
資本金増減額	-	-	-	-	-
資本金残高	42,103	42,103	42,103	42,103	42,103

### ●大株主の状況

(2019年9月30日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数	発行済株式（自己株式を除く。）の総数に対する 所有株式数の割合
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社（信託口）	東京都港区浜松町2丁目11番3号	3,247千株	4.29%
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	3,033	4.01
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目2番1号	2,608	3.45
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1番1号	2,500	3.30
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社（信託口）	東京都中央区晴海1丁目8番11号	2,052	2.71
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140051 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	240 GREENWICH STREET, NEW YORK, NY 10286, U.S.A. (東京都港区港南2丁目15番1号)	1,732	2.29
京セラ株式会社	京都市伏見区竹田鳥羽殿町6番地	1,596	2.11
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・オムロン株式会社口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	1,528	2.02
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カस्टディ業務部)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋3丁目11番1号)	1,525	2.01
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社（信託口5）	東京都中央区晴海1丁目8番11号	1,416	1.87
計	—	21,240	28.11

(注) 1. 2018年12月7日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書（変更報告書）において、株式会社みずほ銀行から、同社他2社を共同保有者として、2018年11月30日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、株式会社みずほ銀行の所有株式を除き、当行として2019年9月30日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。  
なお、その大量保有報告書（変更報告書）の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	750	0.99
みずほ証券株式会社	東京都千代田区大手町一丁目5番1号	86	0.11
アセットマネジメントOne株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目8番2号	2,195	2.89
計	—	3,032	4.00

2. 2019年8月21日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書（変更報告書）において、ブラックロック・ジャパン株式会社から、同社他5社を共同保有者として、2019年8月15日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当行として2019年9月30日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。  
なお、その大量保有報告書（変更報告書）の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
ブラックロック・ジャパン株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目8番3号	875	1.15
ブラックロック・ファンド・マネジャーズ・リミテッド	英国 ロンドン市 スログモートン・アベニュー 12	107	0.14
ブラックロック・アセット・マネジメント・アイルランド・リミテッド	アイルランド共和国 ダブリン ボールスブリッジ ボールスブリッジパーク 2 1階	227	0.30
ブラックロック・ファンド・アドバイザーズ	米国 カリフォルニア州 サンフランシスコ市 ハワード・ストリート 400	788	1.04
ブラックロック・インスティテューショナル・トラスト・カンパニー、エヌ、エイ	米国 カリフォルニア州 サンフランシスコ市 ハワード・ストリート 400	793	1.05
ブラックロック・インベストメント・マネジメント（ユーケー）リミテッド	英国 ロンドン市 スログモートン・アベニュー 12	243	0.32
計	—	3,035	4.00

# 自己資本の充実の状況

本項において、「自己資本比率告示」とは2006年金融庁告示第19号を指しております。

## 〈自己資本の構成に関する開示事項〉

### ●連結自己資本比率

(単位：百万円)

項目	2018年度中間期		2019年度中間期	
		経過措置による不算入額		経過措置による不算入額
<b>コア資本に係る基礎項目</b>				
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	418,265		443,552	
うち、資本金及び資本剰余金の額	76,435		76,364	
うち、利益剰余金の額	345,906		371,003	
うち、自己株式の額 (△)	1,811		1,548	
うち、社外流出予定額 (△)	2,265		2,266	
うち、上記以外に該当するものの額	-		-	
コア資本に算入されるその他の包括利益累計額	△2,497		△3,247	
うち、為替換算調整勘定	-		-	
うち、退職給付に係るものの額	△2,497		△3,247	
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額	550		446	
コア資本に係る調整後非支配株主持分の額	-		-	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	82		94	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	82		94	
うち、適格引当金コア資本算入額	-		-	
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-		-	
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-		-	
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-		-	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	△5		△41	
非支配株主持分のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	1,173		1,017	
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	417,569		441,821	
<b>コア資本に係る調整項目</b>				
無形固定資産 (モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)の額の合計額	1,602	400	2,331	
うち、のれんに係るもの (のれん相当差額を含む。)の額	-	-	-	
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	1,602	400	2,331	
繰延税金資産 (一時差異に係るものを除く。)の額	6	1	53	
適格引当金不足額	13,943		14,754	
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	-	-	-	
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	-	-	-	
退職給付に係る資産の額	-	-	-	
自己保有普通株式等 (純資産の部に計上されるものを除く。)の額	16	4	16	
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	-	-	-	
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	-	-	-	
特定項目に係る十パーセント基準超過額	-	-	-	
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	-	-	-	
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	-	-	-	
うち、繰延税金資産 (一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	-	-	-	
特定項目に係る十五パーセント基準超過額	-	-	-	
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	-	-	-	
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	-	-	-	
うち、繰延税金資産 (一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	-	-	-	
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	15,569		17,155	
<b>自己資本</b>				
自己資本の額 ((イ) - (ロ)) (ハ)	402,000		424,665	
<b>リスク・アセット等</b>				
信用リスク・アセットの額の合計額	3,470,071		3,396,464	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	410		△51	
うち、無形固定資産 (のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)	400			
うち、繰延税金資産	1			
うち、退職給付に係る資産	-			
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	-			
うち、上記以外に該当するものの額	7		△51	
マーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	-		-	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	152,510		153,294	
信用リスク・アセット調整額	-		-	
オペレーショナル・リスク相当額調整額	-		-	
リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)	3,622,582		3,549,758	
<b>連結自己資本比率</b>				
連結自己資本比率 ((ハ) / (ニ))	11.09%		11.96%	

(注) 海外営業拠点を有さないため、自己資本比率は国内基準が適用されます。



●単体自己資本比率

(単位：百万円)

項目	2018年度中間期		2019年度中間期	
		経過措置による不算入額		経過措置による不算入額
<b>コア資本に係る基礎項目</b>				
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	404,231		428,239	
うち、資本金及び資本剰余金の額	72,719		72,648	
うち、利益剰余金の額	335,588		359,406	
うち、自己株式の額 (△)	1,811		1,548	
うち、社外流出予定額 (△)	2,265		2,266	
うち、上記以外に該当するものの額	-		-	
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額	550		446	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	8		8	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	8		8	
うち、適格引当金コア資本算入額	-		-	
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-		-	
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-		-	
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-		-	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	△5		△41	
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	404,785		428,652	
<b>コア資本に係る調整項目</b>				
無形固定資産 (モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)の額の合計額	1,517	379	2,146	
うち、のれんに係るものの額	-	-	-	
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	1,517	379	2,146	
繰延税金資産 (一時差異に係るものを除く。)の額	-	-	-	
適格引当金不足額	16,658		17,343	
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	-	-	-	
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	-	-	-	
前払年金費用の額	-	-	-	
自己保有普通株式等 (純資産の部に計上されるものを除く。)の額	16	4	16	
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	-	-	-	
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	-	-	-	
特定項目に係る十パーセント基準超過額	-	-	-	
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	-	-	-	
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	-	-	-	
うち、繰延税金資産 (一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	-	-	-	
特定項目に係る十五パーセント基準超過額	-	-	-	
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	-	-	-	
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	-	-	-	
うち、繰延税金資産 (一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	-	-	-	
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	18,192		19,506	
<b>自己資本</b>				
自己資本の額 ((イ) - (ロ)) (ハ)	386,593		409,146	
<b>リスク・アセット等</b>				
信用リスク・アセットの額の合計額	3,471,070		3,404,829	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	386		△52	
うち、無形固定資産 (のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)	379			
うち、繰延税金資産	-			
うち、前払年金費用	-			
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	-			
うち、上記以外に該当するものの額	7		△52	
マーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	-		-	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	145,430		145,959	
信用リスク・アセット調整額	-		-	
オペレーショナル・リスク相当額調整額	-		-	
リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)	3,616,501		3,550,788	
<b>自己資本比率</b>				
自己資本比率 ((ハ) / (ニ))	10.68%		11.52%	

(注) 海外営業拠点を有さないため、自己資本比率は国内基準が適用されます。

## 〈定量的な開示事項〉

### 自己資本の充実度

●その他金融機関等であって銀行の子法人等であるもののうち、自己資本比率規制上の所要自己資本を下回った会社の名称と所要自己資本を下回った額の総額該当ありません。

### ●リスク・アセットの額及び所要自己資本の額

(単位：百万円)

	連結				単体			
	2018年度中間期		2019年度中間期		2018年度中間期		2019年度中間期	
	リスク・アセットの額	所要自己資本の額	リスク・アセットの額	所要自己資本の額	リスク・アセットの額	所要自己資本の額	リスク・アセットの額	所要自己資本の額
信用リスク (A)	3,470,071	313,160	3,396,464	307,862	3,471,070	313,080	3,404,829	308,451
標準的手法が適用されるエクスポージャー	25,484	2,038	28,732	2,298	2,867	229	2,866	229
内部格付手法適用会社	2,936	234	2,939	235	2,867	229	2,866	229
標準的手法適用会社	22,548	1,803	25,792	2,063				
内部格付手法が適用されるエクスポージャー	3,433,713	310,251	3,359,401	304,897	3,457,353	311,983	3,393,632	307,555
事業法人向け	1,009,358	91,066	1,043,674	95,106	1,018,608	91,852	1,057,810	96,347
特定貸付債権	21,209	1,883	35,845	3,151	21,209	1,883	35,845	3,151
中堅中小企業向け	597,712	62,665	610,855	63,661	597,870	62,678	611,042	63,676
ソブリン向け	177,012	14,288	180,088	14,526	176,807	14,271	179,914	14,512
金融機関等向け	189,042	15,327	234,341	18,960	187,700	15,218	233,210	18,869
居住用不動産向け	422,113	42,160	399,107	39,621	421,278	41,896	398,319	39,377
適格リボリング型リテール向け	12,496	1,368	12,376	1,360	12,496	1,368	12,376	1,360
その他リテール (事業性) 向け	15,212	1,831	16,280	1,867	15,212	1,831	16,280	1,867
その他リテール (消費性) 向け	8,078	827	9,393	942	8,045	816	9,374	934
株式等	522,858	41,828	431,840	34,547	545,731	43,658	460,050	36,804
うちマーケット・ベース方式 (簡易手法)	307,413	24,593	223,650	17,892	304,022	24,321	220,272	17,621
うちPD/LGD方式	215,445	17,235	208,189	16,655	241,709	19,336	239,777	19,182
みなし計算	308,006	24,877	234,986	19,004	308,003	24,877	234,966	19,003
うちルック・スルー方式			185,433	15,040			185,417	15,039
うちマンドート方式			36,923	2,953			36,920	2,953
うち蓋然性方式 (250%)			2,594	207			2,594	207
うち蓋然性方式 (400%)			5,462	437			5,462	437
うちフォールバック方式 (1250%)			4,571	365			4,571	365
証券化	72	5	76	6	72	5	76	6
購入債権	21,559	1,801	22,372	1,886	21,559	1,801	22,372	1,886
その他資産等	128,979	10,318	128,162	10,252	122,756	9,820	121,991	9,759
CVAリスク相当額を8%で除した額	6,365	509	5,872	469	6,365	509	5,872	469
中央清算機関関連	4,092	327	2,458	196	4,092	327	2,458	196
経過措置によりリスク・アセットに算入した額	415	33			392	31		
(みなし計算・株式等を除く合計)	2,639,205	246,454	2,729,638	254,310	2,617,335	244,544	2,709,812	252,644
オペレーショナル・リスク (B)	152,510	12,200	153,294	12,263	145,430	11,634	145,959	11,676
粗利益配分手法	152,510	12,200	153,294	12,263	145,430	11,634	145,959	11,676
合計 (C) = (A) + (B)	3,622,582	325,361	3,549,758	320,125	3,616,501	324,714	3,550,788	320,128

- (注) 1. 信用リスク・アセットの額は担保・保証等の信用リスク削減効果を勘案した後の金額で、個別引当金等の適格引当金は勘案していません。  
 なお、自己資本比率告示第152条で定められた1.06のスケールリングファクターを考慮しております。  
 2. 標準的手法が適用されるエクスポージャーの所要自己資本の額はリスク・アセットの額×8%で算出してあります。  
 3. 内部格付手法が適用されるエクスポージャーの所要自己資本の額はリスク・アセットの額×8%+期待損失額で算出してあります。  
 4. 経過措置によりリスク・アセットに算入した額は、自己資本比率告示附則第8条第2項の定めによりリスク・アセットを算出した額であります。  
 5. マーケット・リスク相当額にかかる額を算入していません。  
 6. オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額はオペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額×8%で算出してあります。

### ●総所要自己資本額

(単位：百万円)

	連結		単体	
	2018年度中間期	2019年度中間期	2018年度中間期	2019年度中間期
総所要自己資本額	144,903	141,990	144,660	142,031

(注) 総所要自己資本額はリスク・アセットの額×4%で算出してあります。

## 信用リスク (リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャー及び証券化エクスポージャーを除く)

### ●信用リスクに関するエクスポージャー及び三月以上延滞又はデフォルトしたエクスポージャーの期末残高 (種類別、地域別、業種別、残存期間別)

(単位：百万円)

種類別	連結					三月以上延滞又は デフォルトした エクスポージャー
	2018年度中間期					
	エクスポージャーの期末残高					
	貸出金、コミット メント及びデリ バティブ以外の オフ・バランス エクスポージャー	債券	デリバティブ	その他		
標準的手法が適用されるポートフォリオ	35,941	8,231	0	157	27,552	422
内部格付手法が適用されるポートフォリオ	9,556,495	6,384,202	2,049,182	7,832	1,115,278	74,749
合計	9,592,437	6,392,433	2,049,182	7,989	1,142,831	75,171
地域別						
国内計	9,401,105	6,385,101	1,903,361	7,989	1,104,652	75,055
京都・大阪・兵庫・奈良・滋賀	5,694,414	4,667,113	29,039	2,459	995,801	74,740
その他	3,706,690	1,717,988	1,874,322	5,530	108,850	315
国外計	191,331	7,331	145,820	-	38,179	116
合計	9,592,437	6,392,433	2,049,182	7,989	1,142,831	75,171
業種別						
製造業	1,159,581	990,559	20,209	1,019	147,792	13,068
農業、林業	3,439	3,264	100	74	0	319
漁業	71	71	-	-	-	38
鉱業、採石業、砂利採取業	20,907	19,909	-	-	998	17
建設業	140,815	137,576	2,984	7	246	6,554
電気・ガス・熱供給・水道業	79,740	72,468	4,550	287	2,434	-
情報通信業	45,652	43,309	451	8	1,883	676
運輸業、郵便業	253,564	210,984	33,031	5	9,544	2,279
卸売業、小売業	580,435	560,291	13,987	497	5,659	16,299
金融業、保険業	1,897,994	600,096	517,183	5,506	775,207	118
不動産業、物品賃貸業	683,841	676,533	6,486	40	780	6,240
各種サービス業	482,870	414,808	57,701	379	9,981	13,696
地方公共団体	1,190,952	570,463	620,489	-	0	-
個人	1,650,983	1,650,499	-	-	483	15,717
その他	1,401,588	441,596	772,007	164	187,820	144
合計	9,592,437	6,392,433	2,049,182	7,989	1,142,831	75,171
残存期間別						
1年以下	1,640,552	1,275,647	282,660	2,279	79,965	
1年超3年以下	1,089,133	589,657	492,527	1,947	5,000	
3年超5年以下	1,096,262	656,290	439,464	506	-	
5年超7年以下	600,955	441,365	159,138	451	-	
7年超10年以下	1,099,099	784,607	313,287	1,204	-	
10年超	2,843,861	2,572,636	269,625	1,600	-	
期間の定めのないもの	1,222,571	72,227	92,478	-	1,057,866	
合計	9,592,437	6,392,433	2,049,182	7,989	1,142,831	

- (注) 1. 地域別に関しては、貸出金等は勘定を有する営業店の所在地により区分しております。国内有価証券、コールローン等は「国内 その他」に計上しております。非居住者円貸出金、外国有価証券は「国外」に計上しております。
2. 業種別に関しては、国債、ファンド、現金、有形固定資産等は「その他」に計上しております。
3. 残存期間別に関しては、株式、ファンド、現金、有形固定資産等は「期間の定めのないもの」に計上しております。
4. デフォルトしたエクスポージャーには、内部格付手法を適用したエクスポージャーのうち与信先の債務者区分が「要管理先」以下であるものと、標準的手法を適用したエクスポージャーのうち元本又は利息の支払が3か月以上延滞しているもの、または引当金勘案前でリスク・ウェイトが150%であるものを計上しております。
5. 貸出金の残存期間別残高は、貸出金の最終期限により算出しております。
6. CVAリスクに係るエクスポージャーは含まれておりません。

(単位：百万円)

	連結					
	2019年度中間期					
	エクスポージャーの期末残高					三月以上延滞又は デフォルトした エクスポージャー
貸出金、コミット メント及びデリ バティブ以外の オフ・バランス エクスポージャー	債券	デリバティブ	その他			
種類別						
標準的手法が適用されるポートフォリオ	39,682	7,877	0	215	31,589	399
内部格付手法が適用されるポートフォリオ	9,608,724	6,420,146	2,014,260	6,691	1,167,626	73,380
合計	9,648,407	6,428,024	2,014,260	6,906	1,199,216	73,780
地域別						
国内計	9,445,836	6,417,988	1,857,330	6,906	1,163,611	73,677
京都・大阪・兵庫・奈良・滋賀	5,910,776	4,784,909	31,309	2,213	1,092,343	72,890
その他	3,535,060	1,633,078	1,826,020	4,692	71,268	786
国外計	202,570	10,036	156,929	-	35,604	103
合計	9,648,407	6,428,024	2,014,260	6,906	1,199,216	73,780
業種別						
製造業	1,163,048	1,001,054	24,833	738	136,421	14,894
農業、林業	3,420	3,273	100	47	0	295
漁業	62	62	-	-	-	35
鉱業、採石業、砂利採取業	21,143	20,145	-	-	998	12
建設業	142,766	139,209	3,236	5	314	5,668
電気・ガス・熱供給・水道業	95,685	86,156	6,642	351	2,534	-
情報通信業	38,529	37,525	409	3	590	701
運輸業、郵便業	251,844	212,804	29,813	2	9,223	2,318
卸売業、小売業	580,297	560,869	14,764	525	4,138	18,840
金融業、保険業	1,919,488	485,883	605,303	4,646	823,654	91
不動産業、物品賃貸業	715,696	701,977	11,922	27	1,768	6,403
各種サービス業	492,919	416,281	66,604	325	9,708	9,281
地方公共団体	1,256,513	601,184	655,329	-	0	-
個人	1,710,213	1,709,759	-	-	454	15,125
その他	1,256,775	451,835	595,300	230	209,408	112
合計	9,648,407	6,428,024	2,014,260	6,906	1,199,216	73,780
残存期間別						
1年以下	1,563,573	1,166,860	339,492	2,396	54,824	
1年超3年以下	1,060,892	622,999	422,843	1,419	13,629	
3年超5年以下	1,101,950	645,537	455,788	624	-	
5年超7年以下	733,577	557,160	175,939	476	-	
7年超10年以下	885,265	679,032	205,959	273	-	
10年超	3,022,358	2,680,197	340,446	1,714	-	
期間の定めのないもの	1,280,788	76,236	73,790	-	1,130,761	
合計	9,648,407	6,428,024	2,014,260	6,906	1,199,216	

(注) 1. 地域別に関しては、貸出金等は勘定を有する営業店の所在地により区分しております。国内有価証券、コールローン等は「国内 その他」に計上しております。非居住者円貸出金、外国有価証券は「国外」に計上しております。

2. 業種別に関しては、国債、ファンド、現金、有形固定資産等は「その他」に計上しております。

3. 残存期間別に関しては、株式、ファンド、現金、有形固定資産等は「期間の定めのないもの」に計上しております。

4. デフォルトしたエクスポージャーには、内部格付手法を適用したエクスポージャーのうち与信先の債務者区分が「要管理先」以下であるものと、標準的手法を適用したエクスポージャーのうち元本又は利息の支払が3か月以上延滞しているもの、または引当金勘案前でリスク・ウェイトが150%であるものを計上しております。

5. 貸出金の残存期間別残高は、貸出金の最終期限により算出しております。

6. CVAリスクに係るエクスポージャーは含まれておりません。

(単位：百万円)

	単体					
	2018年度中間期					
	エクスポージャーの期末残高					三月以上延滞又は デフォルトした エクスポージャー
貸出金、コミット メント及びデリ バティブ以外の オフ・バランス エクスポージャー	債券	デリバティブ	その他			
種類別						
標準的手法が適用されるポートフォリオ	11,774	7,661	-	157	3,954	-
内部格付手法が適用されるポートフォリオ	9,566,601	6,392,928	2,044,171	7,832	1,121,669	74,268
合計	9,578,376	6,400,590	2,044,171	7,989	1,125,623	74,268
地域別						
国内計	9,387,044	6,393,258	1,898,351	7,989	1,087,444	74,152
京都・大阪・兵庫・奈良・滋賀	5,685,363	4,675,270	29,039	2,459	978,593	73,836
その他	3,701,680	1,717,988	1,869,311	5,530	108,850	315
国外計	191,331	7,331	145,820	-	38,179	116
合計	9,578,376	6,400,590	2,044,171	7,989	1,125,623	74,268
業種別						
製造業	1,159,581	990,559	20,209	1,019	147,792	13,068
農業、林業	3,439	3,264	100	74	0	319
漁業	71	71	-	-	-	38
鉱業、採石業、砂利採取業	20,907	19,909	-	-	998	17
建設業	140,815	137,576	2,984	7	246	6,554
電気・ガス・熱供給・水道業	79,740	72,468	4,550	287	2,434	-
情報通信業	45,652	43,309	451	8	1,883	676
運輸業、郵便業	253,564	210,984	33,031	5	9,544	2,279
卸売業、小売業	580,435	560,291	13,987	497	5,659	16,299
金融業、保険業	1,895,885	600,496	514,674	5,506	775,207	118
不動産業、物品賃貸業	692,167	684,860	6,486	40	780	6,240
各種サービス業	482,870	414,808	57,701	379	9,981	13,696
地方公共団体	1,188,450	570,463	617,987	-	0	-
個人	1,649,930	1,649,930	-	-	0	14,842
その他	1,384,862	441,596	772,007	164	171,095	116
合計	9,578,376	6,400,590	2,044,171	7,989	1,125,623	74,268
残存期間別						
1年以下	1,647,149	1,282,244	282,660	2,279	79,965	
1年超3年以下	1,089,396	590,920	491,527	1,947	5,000	
3年超5年以下	1,094,843	656,869	437,466	506	-	
5年超7年以下	600,733	441,653	158,628	451	-	
7年超10年以下	1,097,596	784,607	311,785	1,204	-	
10年超	2,843,861	2,572,636	269,625	1,600	-	
期間の定めのないもの	1,204,794	71,658	92,478	-	1,040,658	
合計	9,578,376	6,400,590	2,044,171	7,989	1,125,623	

(注) 1. 地域別に関しては、貸出金等は勘定を有する営業店の所在地により区分しております。国内有価証券、コールローン等は「国内 その他」に計上しております。非居住者円貸出金、外国有価証券は「国外」に計上しております。

2. 業種別に関しては、国債、ファンド、現金、有形固定資産等は「その他」に計上しております。

3. 残存期間別に関しては、株式、ファンド、現金、有形固定資産等は「期間の定めのないもの」に計上しております。

4. デフォルトしたエクスポージャーには、内部格付手法を適用したエクスポージャーのうち与信先の債務者区分が「要管理先」以下であるものを計上しております。

5. 貸出金の残存期間別残高は、貸出金の最終期限により算出しております。

6. CVAリスクに係るエクスポージャーは含まれておりません。

(単位：百万円)

	単体					
	2019年度中間期					
	エクスポージャーの期末残高					三月以上延滞又は デフォルトした エクスポージャー
貸出金、コミット メント及びデリ バティブ以外の オフ・バランス エクスポージャー	債券	デリバティブ	その他			
種類別						
標準的手法が適用されるポートフォリオ	11,378	7,346	-	215	3,816	-
内部格付手法が適用されるポートフォリオ	9,620,334	6,430,329	2,009,252	6,691	1,174,060	72,927
合計	9,631,712	6,437,676	2,009,252	6,906	1,177,877	72,927
地域別						
国内計	9,429,141	6,427,640	1,852,322	6,906	1,142,272	72,824
京都・大阪・兵庫・奈良・滋賀	5,899,089	4,794,562	31,309	2,213	1,071,004	72,037
その他	3,530,052	1,633,078	1,821,012	4,692	71,268	786
国外計	202,570	10,036	156,929	-	35,604	103
合計	9,631,712	6,437,676	2,009,252	6,906	1,177,877	72,927
業種別						
製造業	1,163,048	1,001,054	24,833	738	136,421	14,894
農業、林業	3,420	3,273	100	47	0	295
漁業	62	62	-	-	-	35
鉱業、採石業、砂利採取業	21,143	20,145	-	-	998	12
建設業	142,766	139,209	3,236	5	314	5,668
電気・ガス・熱供給・水道業	95,685	86,156	6,642	351	2,534	-
情報通信業	38,529	37,525	409	3	590	701
運輸業、郵便業	251,844	212,804	29,813	2	9,223	2,318
卸売業、小売業	580,297	560,869	14,764	525	4,138	18,840
金融業、保険業	1,917,381	486,283	602,797	4,646	823,654	91
不動産業、物品賃貸業	725,480	711,760	11,922	27	1,768	6,403
各種サービス業	492,919	416,281	66,604	325	9,708	9,281
地方公共団体	1,254,012	601,184	652,827	-	0	-
個人	1,709,229	1,709,228	-	-	1	14,281
その他	1,235,889	451,835	595,300	230	188,523	103
合計	9,631,712	6,437,676	2,009,252	6,906	1,177,877	72,927
残存期間別						
1年以下	1,569,522	1,172,809	339,492	2,396	54,824	
1年超3年以下	1,060,000	624,106	420,844	1,419	13,629	
3年超5年以下	1,102,855	647,441	454,788	624	-	
5年超7年以下	732,944	558,037	174,430	476	-	
7年超10年以下	885,111	679,379	205,458	273	-	
10年超	3,022,358	2,680,197	340,446	1,714	-	
期間の定めのないもの	1,258,918	75,704	73,790	-	1,109,422	
合計	9,631,712	6,437,676	2,009,252	6,906	1,177,877	

(注) 1. 地域別に関しては、貸出金等は勘定を有する営業店の所在地により区分しております。国内有価証券、コールローン等は「国内 その他」に計上しております。非居住者円貸出金、外国有価証券は「国外」に計上しております。

2. 業種別に関しては、国債、ファンド、現金、有形固定資産等は「その他」に計上しております。

3. 残存期間別に関しては、株式、ファンド、現金、有形固定資産等は「期間の定めのないもの」に計上しております。

4. デフォルトしたエクスポージャーには、内部格付手法を適用したエクスポージャーのうち与信先の債務者区分が「要管理先」以下であるものを計上しております。

5. 貸出金の残存期間別残高は、貸出金の最終期限により算出しております。

6. CVAリスクに係るエクスポージャーは含まれておりません。

●貸倒引当金期末残高、期中増減額

(単位：百万円)

	連結									
	2018年度中間期					2019年度中間期				
	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高
		目的使用	その他				目的使用	その他		
一般貸倒引当金	10,682	10,449	-	※10,682	10,449	10,463	10,175	-	※10,463	10,175
個別貸倒引当金	11,339	11,068	358	※10,980	11,068	12,553	10,926	1,310	※11,243	10,926
うち非居住者向け債権分	123	22	-	※123	22	20	19	-	※20	19
特定海外債権引当勘定	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	22,021	21,517	358	※21,663	21,517	23,017	21,101	1,310	※21,706	21,101

	単体									
	2018年度中間期					2019年度中間期				
	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高
		目的使用	その他				目的使用	その他		
一般貸倒引当金	9,266	9,085	-	※9,266	9,085	9,125	8,874	-	※9,125	8,874
個別貸倒引当金	9,103	9,013	220	※8,883	9,013	10,629	9,028	1,259	※9,370	9,028
うち非居住者向け債権分	123	22	-	※123	22	20	19	-	※20	19
特定海外債権引当勘定	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	18,369	18,098	220	※18,149	18,098	19,754	17,902	1,259	※18,495	17,902

(注) 1. ※洗替による取崩額であります。

2. リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャー及び証券化エクスポージャーに対する引当金を含んでおります。

●個別貸倒引当金（地域別、業種別）

(単位：百万円)

	連結							
	2018年度中間期				2019年度中間期			
	期首残高	期中増加額	期中減少額	期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額	期末残高
地域別								
国内計	11,215	11,046	11,215	11,046	12,532	10,906	12,532	10,906
京都・大阪・兵庫・奈良・滋賀	11,078	10,944	11,078	10,944	11,686	10,708	11,686	10,708
その他	137	101	137	101	846	198	846	198
国外計	123	22	123	22	20	19	20	19
合計	11,339	11,068	11,339	11,068	12,553	10,926	12,553	10,926
業種別								
製造業	2,629	2,600	2,629	2,600	3,743	3,010	3,743	3,010
農業、林業	13	17	13	17	16	16	16	16
漁業	2	2	2	2	2	2	2	2
鉱業、採石業、砂利採取業	2	2	2	2	1	-	1	-
建設業	401	288	401	288	211	92	211	92
電気・ガス・熱供給・水道業	-	-	-	-	-	-	-	-
情報通信業	29	4	29	4	4	4	4	4
運輸業、郵便業	27	59	27	59	61	59	61	59
卸売業、小売業	3,147	3,292	3,147	3,292	3,565	3,091	3,565	3,091
金融業、保険業	54	-	54	-	30	6	30	6
不動産業、物品賃貸業	1,490	1,449	1,490	1,449	1,456	1,407	1,456	1,407
各種サービス業	1,088	1,167	1,088	1,167	1,358	1,234	1,358	1,234
地方公共団体	-	-	-	-	-	-	-	-
個人	2,328	2,161	2,328	2,161	2,079	1,981	2,079	1,981
その他	123	22	123	22	20	19	20	19
合計	11,339	11,068	11,339	11,068	12,553	10,926	12,553	10,926

	単体							
	2018年度中間期				2019年度中間期			
	期首残高	期中増加額	期中減少額	期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額	期末残高
地域別								
国内計	8,980	8,991	8,980	8,991	10,608	9,009	10,608	9,009
京都・大阪・兵庫・奈良・滋賀	8,842	8,890	8,842	8,890	9,762	8,810	9,762	8,810
その他	137	101	137	101	846	198	846	198
国外計	123	22	123	22	20	19	20	19
合計	9,103	9,013	9,103	9,013	10,629	9,028	10,629	9,028
業種別								
製造業	2,613	2,590	2,613	2,590	3,734	3,000	3,734	3,000
農業、林業	13	17	13	17	16	16	16	16
漁業	2	2	2	2	2	2	2	2
鉱業、採石業、砂利採取業	2	2	2	2	1	-	1	-
建設業	398	286	398	286	209	91	209	91
電気・ガス・熱供給・水道業	-	-	-	-	-	-	-	-
情報通信業	29	4	29	4	4	4	4	4
運輸業、郵便業	27	58	27	58	60	59	60	59
卸売業、小売業	3,129	3,274	3,129	3,274	3,564	3,089	3,564	3,089
金融業、保険業	54	-	54	-	30	6	30	6
不動産業、物品賃貸業	1,490	1,449	1,490	1,449	1,456	1,407	1,456	1,407
各種サービス業	1,052	1,130	1,052	1,130	1,320	1,201	1,320	1,201
地方公共団体	-	-	-	-	-	-	-	-
個人	166	175	166	175	207	129	207	129
その他	123	22	123	22	20	19	20	19
合計	9,103	9,013	9,103	9,013	10,629	9,028	10,629	9,028

(注) 1. 一般貸倒引当金は地域別、業種別に算定を行っておりません。

2. 特定海外債権引当勘定は該当ありません。

●貸出金償却額（業種別）

（単位：百万円）

業種別	連結		単体	
	2018年度中間期	2019年度中間期	2018年度中間期	2019年度中間期
製造業	-	-	-	-
農業、林業	-	-	-	-
漁業	-	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業	-	-	-	-
建設業	1	-	-	-
電気・ガス・熱供給・水道業	-	-	-	-
情報通信業	-	-	-	-
運輸業、郵便業	-	-	-	-
卸売業、小売業	-	-	-	-
金融業、保険業	-	-	-	-
不動産業、物品賃貸業	-	-	-	-
各種サービス業	-	-	-	-
地方公共団体	-	-	-	-
個人	0	0	0	0
その他	-	-	-	-
合計	2	0	0	0

●標準的手法が適用されるエクスポージャーについてリスク・ウェイト区分毎の信用リスク削減手法の効果を勘案した後の残高

（単位：百万円）

リスク・ウェイト	連結				単体			
	2018年度中間期		2019年度中間期		2018年度中間期		2019年度中間期	
	格付有り	格付無し	格付有り	格付無し	格付有り	格付無し	格付有り	格付無し
0%	-	206	-	170	-	0	-	0
0%超20%未満	-	-	-	-	-	-	-	-
20%以上50%未満	3,160	0	4,087	-	1,200	0	1,037	-
50%以上75%未満	-	2	-	1	-	-	-	-
75%以上100%未満	-	0	-	0	-	0	-	0
100%以上150%未満	-	23,679	-	26,884	-	2,626	-	2,657
150%以上250%未満	-	1	-	0	-	-	-	-
250%以上1250%未満	-	474	-	401	-	-	-	-
1250%	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	3,160	24,364	4,087	27,457	1,200	2,627	1,037	2,657

（注）「格付有り」とは、適格格付機関が付与した格付を参照しリスク・ウェイトを判定したエクスポージャーであります。  
 なお、適格格付機関として、株式会社格付投資情報センター（R&I）、株式会社日本格付研究所（JCR）、ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク（Moody's）、S&Pグローバル・レーティング（S&P）を使用しております。

●内部格付手法が適用されるエクスポージャーのうち、スロットティング・クライテリアに割り当てられた特定貸付債権のリスク・ウェイト区分毎の残高

●プロジェクト・ファイナンス、オブジェクト・ファイナンス、コモディティ・ファイナンス、事業用不動産向け貸付

（単位：百万円）

スロットティング・クライテリア	残存期間	リスク・ウェイト	2018年度中間期	2019年度中間期
優	2.5年未満	50%	-	-
	2.5年以上	70%	-	6,233
良	2.5年未満	70%	2,230	6,974
	2.5年以上	90%	19,423	26,251
可	-	115%	646	587
弱い	-	250%	-	-
デフォルト	-	0%	-	-
合計			22,300	40,046

●ボラティリティの高い事業用不動産向け貸付

（単位：百万円）

スロットティング・クライテリア	残存期間	リスク・ウェイト	2018年度中間期	2019年度中間期
優	2.5年未満	70%	-	-
	2.5年以上	95%	-	-
良	2.5年未満	95%	-	48
	2.5年以上	120%	-	-
可	-	140%	159	159
弱い	-	250%	-	-
デフォルト	-	0%	-	-
合計			159	207

（注）1. 連結子会社では該当ありません。  
 2. 特定貸付債権とは、プロジェクト・ファイナンス、オブジェクト・ファイナンス、コモディティ・ファイナンス、事業用不動産向け貸付及びボラティリティの高い事業用不動産向け貸付に該当する貸付債権であります。  
 3. スロットティング・クライテリアとは、自己資本比率告示第153条第4項及び第6項に規定する、優・良・可・弱い・デフォルトの5つの区分であります。

●内部格付手法が適用されるエクスポージャーのうち、マーケット・ベース方式の簡易手法が適用される株式等エクスポージャーのリスク・ウェイト区分毎の残高

（単位：百万円）

上場/非上場	リスク・ウェイト	連結		単体	
		2018年度中間期	2019年度中間期	2018年度中間期	2019年度中間期
上場	300%	95,858	69,522	95,495	69,158
非上場	400%	609	606	82	82
合計		96,467	70,128	95,577	69,240

（注）マーケット・ベース方式における簡易手法とは、上場株式については300%、非上場株式については400%のリスク・ウェイトを乗じた額を信用リスク・アセットの額とする方式であります。



●内部格付手法が適用されるポートフォリオについての事項

●事業法人向け、ソブリン向け、金融機関等向けエクスポージャー及びPD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャーに係る債務者格付別パラメータ等

(単位：百万円)

債務者格付	連結					
	2018年度中間期					
	債務者区分	PD 加重平均値	LGD 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD	
オン・バランス 資産項目					オフ・バランス 資産項目	
事業法人向けエクスポージャー		1.94%	39.37%	48.28%	2,750,614	369,312
上位格付	正常先	0.12	38.48	30.07	1,745,613	348,530
中位格付	正常先	1.10	41.44	74.44	779,988	18,903
下位格付	要注意先	9.47	39.93	143.73	194,295	1,877
デフォルト	要管理先以下	100.00	42.84	0.00	30,715	-
ソブリン向けエクスポージャー		0.01	45.00	4.67	3,149,765	428,977
上位格付	正常先	0.01	45.00	4.63	3,148,264	428,977
中位格付	正常先	1.98	41.64	95.17	1,500	-
下位格付	要注意先	-	-	-	-	-
デフォルト	要管理先以下	-	-	-	-	-
金融機関等向けエクスポージャー		0.10	39.09	31.08	389,807	120,372
上位格付	正常先	0.10	39.07	31.05	388,554	120,372
中位格付	正常先	0.29	45.00	37.50	1,200	-
下位格付	要注意先	5.38	45.00	162.27	52	-
デフォルト	要管理先以下	-	-	-	-	-
PD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャー		0.13	90.00	112.96	179,562	-
上位格付	正常先	0.06	90.00	109.04	175,313	-
中位格付	正常先	1.09	90.00	244.49	3,923	-
下位格付	要注意先	9.05	90.00	546.35	274	-
デフォルト	要管理先以下	100.00	90.00	1,125.00	51	-

債務者格付	連結					
	2019年度中間期					
	債務者区分	PD 加重平均値	LGD 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD	
オン・バランス 資産項目					オフ・バランス 資産項目	
事業法人向けエクスポージャー		2.04%	40.77%	50.02%	2,822,707	278,148
上位格付	正常先	0.11	40.54	31.08	1,770,308	254,609
中位格付	正常先	1.03	41.42	73.43	810,275	21,006
下位格付	要注意先	9.61	40.07	146.28	210,303	2,531
デフォルト	要管理先以下	100.00	42.86	0.00	31,819	0
ソブリン向けエクスポージャー		0.01	45.00	4.72	3,168,558	431,234
上位格付	正常先	0.01	45.00	4.69	3,167,489	431,234
中位格付	正常先	1.78	41.24	93.69	1,069	-
下位格付	要注意先	-	-	-	-	-
デフォルト	要管理先以下	-	-	-	-	-
金融機関等向けエクスポージャー		0.11	40.87	37.62	391,130	101,397
上位格付	正常先	0.10	40.86	37.58	389,823	101,397
中位格付	正常先	0.47	45.00	42.14	1,200	-
下位格付	要注意先	5.11	45.00	159.33	107	-
デフォルト	要管理先以下	-	-	-	-	-
PD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャー		0.12	90.00	112.77	172,479	-
上位格付	正常先	0.07	90.00	108.99	167,376	-
中位格付	正常先	0.67	90.00	196.68	4,646	-
下位格付	要注意先	8.03	90.00	606.54	422	-
デフォルト	要管理先以下	100.00	90.00	1,125.00	33	-

- (注) 1. 事業法人向けエクスポージャーは、中堅中小企業向けエクスポージャーを含みますが、特定貸付債権及び購入債権を含んでおりません。  
2. 「上位格付」はS～C格、「中位格付」はD～G格、「下位格付」はH～J格であります。  
3. リスク・ウェイトの加重平均値は自己資本比率告示第152条で定められた1.06のスケールリングファクターを乗じる前の信用リスク・アセットの額を基に算出しております。  
4. EADとは、内部格付手法が適用されるエクスポージャーについてデフォルトが発生した場合に想定される与信残高であり、エクスポージャーから貸出金と自行預金の相殺分を控除した金額であります。  
5. オフ・バランス資産項目のEADは、CCF（与信換算掛目）適用後の数値を使用しております。  
6. 他の金融機関等の普通株式等を除く資本調達手段を含んでおりません。  
7. PD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャーのリスク・ウェイト加重平均値は、期待損失額に1250%を乗じた額を加算した信用リスク・アセット額を基に算出しております。

(単位：百万円)

債務者格付	単体					
	2018年度中間期					
	債務者区分	PD 加重平均値	LGD 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD	
				オン・バランス 資産項目	オフ・バランス 資産項目	
事業法人向けエクスポージャー		1.94%	39.39%	48.43%	2,759,340	369,312
上位格付	正常先	0.12	38.48	30.07	1,745,713	348,530
中位格付	正常先	1.10	41.48	74.74	788,615	18,903
下位格付	要注意先	9.47	39.93	143.73	194,295	1,877
デフォルト	要管理先以下	100.00	42.84	0.00	30,715	-
ソブリン向けエクスポージャー		0.01	45.00	4.66	3,147,263	428,977
上位格付	正常先	0.01	45.00	4.63	3,145,762	428,977
中位格付	正常先	1.98	41.64	95.17	1,500	-
下位格付	要注意先	-	-	-	-	-
デフォルト	要管理先以下	-	-	-	-	-
金融機関等向けエクスポージャー		0.10	39.06	30.99	387,298	120,372
上位格付	正常先	0.10	39.04	30.96	386,045	120,372
中位格付	正常先	0.29	45.00	37.50	1,200	-
下位格付	要注意先	5.38	45.00	162.27	52	-
デフォルト	要管理先以下	-	-	-	-	-
PD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャー		0.18	90.00	119.98	189,693	-
上位格付	正常先	0.07	90.00	109.13	175,781	-
中位格付	正常先	1.06	90.00	248.02	13,587	-
下位格付	要注意先	9.05	90.00	546.35	274	-
デフォルト	要管理先以下	100.00	90.00	1,125.00	51	-

債務者格付	単体					
	2019年度中間期					
	債務者区分	PD 加重平均値	LGD 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD	
				オン・バランス 資産項目	オフ・バランス 資産項目	
事業法人向けエクスポージャー		2.04%	40.78%	50.29%	2,832,890	278,148
上位格付	正常先	0.11	40.54	31.08	1,770,408	254,609
中位格付	正常先	1.05	41.46	74.15	820,359	21,006
下位格付	要注意先	9.61	40.07	146.28	210,303	2,531
デフォルト	要管理先以下	100.00	42.86	0.00	31,819	0
ソブリン向けエクスポージャー		0.01	45.00	4.72	3,166,057	431,234
上位格付	正常先	0.01	45.00	4.69	3,164,987	431,234
中位格付	正常先	1.78	41.24	93.69	1,069	-
下位格付	要注意先	-	-	-	-	-
デフォルト	要管理先以下	-	-	-	-	-
金融機関等向けエクスポージャー		0.11	40.85	37.60	388,624	101,397
上位格付	正常先	0.10	40.84	37.56	387,316	101,397
中位格付	正常先	0.47	45.00	42.14	1,200	-
下位格付	要注意先	5.11	45.00	159.33	107	-
デフォルト	要管理先以下	-	-	-	-	-
PD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャー		0.18	90.00	122.84	182,597	-
上位格付	正常先	0.07	90.00	109.06	167,834	-
中位格付	正常先	1.08	90.00	267.81	14,306	-
下位格付	要注意先	8.03	90.00	606.54	422	-
デフォルト	要管理先以下	100.00	90.00	1,125.00	33	-

(注) 1. 事業法人向けエクスポージャーは、中堅中小企業向けエクスポージャーを含みますが、特定貸付債権及び購入債権は含んでおりません。

2. 「上位格付」はS～C格、「中位格付」はD～G格、「下位格付」はH～J格であります。

3. リスク・ウェイトの加重平均値は自己資本比率告示第152条で定められた1.06のスケールリングファクターを乗じる前の信用リスク・アセットの額を基に算出しております。

4. EADとは、内部格付手法が適用されるエクスポージャーについてデフォルトが発生した場合に想定される与信残高であり、エクスポージャーから貸出金と自行預金の相殺分を控除した金額であります。

5. オフ・バランス資産項目のEADは、CCF（与信換算掛目）適用後の数値を使用しております。

6. 他の金融機関等の普通株式等を除く資本調達手段を含んでおりません。

7. PD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャーのリスク・ウェイト加重平均値は、期待損失額に1250%を乗じた額を加算した信用リスク・アセット額を基に算出しております。

● 居住用不動産向け、適格リボルビング型リテール向け及びその他リテール向けエクスポージャーに係るプール区分別パラメータ等

(単位：百万円)

プール区分	連結							
	2018年度中間期							
	PD 加重平均値	LGD 加重平均値	Eldefault 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD		コミットメント未引額	
				オン・バランス 資産項目	オフ・バランス 資産項目		掛目加重 平均値	
居住用不動産向けエクスポージャー	1.65%	34.73%	-	25.19%	1,580,618	-	-	-
非延滞先	0.59	34.71	-	24.46	1,562,121	-	-	-
延滞先	30.74	34.94	-	203.85	2,386	-	-	-
デフォルト	100.00	36.86	31.30%	69.45	16,111	-	-	-
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	0.41	86.28	-	11.07	14,408	92,106	187,449	49.33%
非延滞先	0.34	86.28	-	10.81	14,234	92,093	187,273	49.35
延滞先	18.52	88.09	-	223.78	127	5	140	21.53
デフォルト	100.00	72.40	72.40	0.00	46	7	34	51.53
その他リテール向けエクスポージャー（事業性）	4.13	21.28	-	20.49	69,126	917	1,822	48.03
非延滞先	1.60	21.19	-	19.81	67,274	916	1,821	48.03
延滞先	34.17	17.65	-	46.28	78	-	-	-
デフォルト	100.00	24.74	21.12	45.28	1,773	0	1	48.03
その他リテール向けエクスポージャー（消費性）	2.49	54.06	-	38.35	19,805	65	200	31.22
非延滞先	0.74	54.46	-	37.47	19,366	59	181	31.22
延滞先	30.11	35.70	-	91.29	129	4	13	31.22
デフォルト	100.00	36.91	31.23	70.98	309	1	5	31.22

プール区分	連結							
	2019年度中間期							
	PD 加重平均値	LGD 加重平均値	Eldefault 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD		コミットメント未引額	
				オン・バランス 資産項目	オフ・バランス 資産項目		掛目加重 平均値	
居住用不動産向けエクスポージャー	1.53%	33.58%	-	23.01%	1,636,500	-	-	-
非延滞先	0.54	33.56	-	22.30	1,618,592	-	-	-
延滞先	30.34	34.09	-	198.97	2,331	-	-	-
デフォルト	100.00	35.27	29.63%	70.61	15,576	-	-	-
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	0.41	86.67	-	10.95	14,231	92,430	187,489	49.32%
非延滞先	0.33	86.68	-	10.72	14,071	92,412	187,312	49.34
延滞先	18.18	86.76	-	218.67	111	5	135	19.88
デフォルト	100.00	75.44	75.44	0.00	49	11	41	50.03
その他リテール向けエクスポージャー（事業性）	3.59	22.88	-	21.46	70,621	940	1,840	48.03
非延滞先	1.52	22.83	-	20.85	69,070	939	1,836	48.03
延滞先	33.08	22.05	-	57.50	70	-	-	-
デフォルト	100.00	24.92	21.02	48.68	1,481	1	3	48.03
その他リテール向けエクスポージャー（消費性）	2.21	55.21	-	39.14	22,580	59	182	31.22
非延滞先	0.72	55.51	-	38.31	22,173	57	175	31.22
延滞先	32.14	46.78	-	121.36	100	-	-	-
デフォルト	100.00	36.87	31.07	72.46	306	2	7	31.22

- (注) 1. リスク・ウェイトの加重平均値は自己資本比率告示第152条で定められた1.06のスケールリングファクターを乗じる前の信用リスク・アセットの額を基に算出しております。
2. EADとは、内部格付手法が適用されるエクスポージャーについてデフォルトが発生した場合に想定される与信残高であり、エクスポージャーから貸出金と自行預金の相殺分を控除した金額であります。
3. オフ・バランス資産項目のEADは、CCF（与信換算掛目）適用後の数値を使用しております。

(単位：百万円)

プール区分	単体							
	2018年度中間期							
	PD 加重平均値	LGD 加重平均値	Eldefault 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD		コミットメント未引出額	
オン・バランス 資産項目					オフ・バランス 資産項目		掛目加重 平均値	
居住用不動産向けエクスポージャー	1.62%	34.73%	-	25.15%	1,580,152	-	-	-
非延滞先	0.59	34.71	-	24.46	1,562,121	-	-	-
延滞先	30.74	34.94	-	203.85	2,386	-	-	-
デフォルト	100.00	36.29	30.97%	66.48	15,645	-	-	-
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	0.41	86.28	-	11.07	14,408	92,106	187,449	49.33%
非延滞先	0.34	86.28	-	10.81	14,234	92,093	187,273	49.35
延滞先	18.52	88.09	-	223.78	127	5	140	21.53
デフォルト	100.00	72.40	72.40	0.00	46	7	34	51.53
その他リテール向けエクスポージャー（事業性）	4.13	21.28	-	20.49	69,126	917	1,822	48.03
非延滞先	1.60	21.19	-	19.81	67,274	916	1,821	48.03
延滞先	34.17	17.65	-	46.28	78	-	-	-
デフォルト	100.00	24.74	21.12	45.28	1,773	0	1	48.03
その他リテール向けエクスポージャー（消費性）	2.42	54.04	-	38.23	19,790	65	200	31.22
非延滞先	0.74	54.46	-	37.47	19,366	59	181	31.22
延滞先	30.11	35.70	-	91.29	129	4	13	31.22
デフォルト	100.00	35.05	29.92	64.21	294	1	5	31.22

プール区分	単体							
	2019年度中間期							
	PD 加重平均値	LGD 加重平均値	Eldefault 加重平均値	リスク・ウェイト 加重平均値	EAD		コミットメント未引出額	
オン・バランス 資産項目					オフ・バランス 資産項目		掛目加重 平均値	
居住用不動産向けエクスポージャー	1.50%	33.58%	-	22.97%	1,636,055	-	-	-
非延滞先	0.54	33.56	-	22.30	1,618,592	-	-	-
延滞先	30.34	34.09	-	198.97	2,331	-	-	-
デフォルト	100.00	34.72	29.30%	67.78	15,131	-	-	-
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	0.41	86.67	-	10.95	14,231	92,430	187,489	49.32%
非延滞先	0.33	86.68	-	10.72	14,071	92,412	187,312	49.34
延滞先	18.18	86.76	-	218.67	111	5	135	19.88
デフォルト	100.00	75.44	75.44	0.00	49	11	41	50.03
その他リテール向けエクスポージャー（事業性）	3.59	22.88	-	21.46	70,621	940	1,840	48.03
非延滞先	1.52	22.83	-	20.85	69,070	939	1,836	48.03
延滞先	33.08	22.05	-	57.50	70	-	-	-
デフォルト	100.00	24.92	21.02	48.68	1,481	1	3	48.03
その他リテール向けエクスポージャー（消費性）	2.17	55.20	-	39.08	22,572	59	182	31.22
非延滞先	0.72	55.51	-	38.31	22,173	57	175	31.22
延滞先	32.14	46.78	-	121.36	100	-	-	-
デフォルト	100.00	35.10	29.62	68.49	297	2	7	31.22

(注) 1. リスク・ウェイトの加重平均値は自己資本比率告示第152条で定められた1.06のスケールリングファクターを乗じる前の信用リスク・アセットの額を基に算出しております。

2. EADとは、内部格付手法が適用されるエクスポージャーについてデフォルトが発生した場合に想定される与信残高であり、エクスポージャーから貸出金と自行預金の相殺分を控除した金額であります。

3. オフ・バランス資産項目のEADは、CCF（与信換算掛目）適用後の数値を使用しております。

●内部格付手法を適用する事業法人向けエクスポージャー、ソブリン向けエクスポージャー、金融機関等向けエクスポージャー、PD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャー、居住用不動産向けエクスポージャー、適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー及びその他リテール向けエクスポージャー毎の直前期における損失額の実績値と過去の実績値との対比

(単位：百万円)

区分	連結			単体		
	2018年度中間期	2019年度中間期	増減額	2018年度中間期	2019年度中間期	増減額
事業法人向け	9,461	10,534	1,072	9,461	10,534	1,072
ソブリン向け	-	-	-	-	-	-
金融機関等向け	-	-	-	-	-	-
PD/LGD方式を適用する株式等	-	-	-	-	-	-
居住用不動産向け	1,856	1,673	△182	121	142	20
適格リボルビング型リテール向け	-	-	-	-	-	-
その他リテール向け	218	158	△59	157	122	△34
合計	11,536	12,366	829	9,741	10,799	1,057

(注) 1. 損失額の実績値は、過去1年間に生じた直接償却額、債権売却損失額及び債権放棄額と期末時点における個別貸倒引当金及び要管理先に対する一般貸倒引当金の合計額であります。なお、価格変動リスクの実現のみによる売却損や償却は含めておりません。

2. 連結の損失額の実績値においては、内部格付手法適用子会社である京都信用保証サービス株式会社の求償債権に係る直接償却額、債権売却損失額及び個別貸倒引当金のほか、保証債務に係る個別貸倒引当金及びデフォルトした債権の一般貸倒引当金を含めております。

<要因分析>

主に、事業法人向けエクスポージャーにおいて不良債権処理額が増加したことから、損失額の実績値は前年対比増加しました。

●内部格付手法を適用する事業法人向けエクスポージャー、ソブリン向けエクスポージャー、金融機関等向けエクスポージャー、PD/LGD方式を適用する株式等エクスポージャー、居住用不動産向けエクスポージャー、適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー及びその他リテール向けエクスポージャー毎の長期にわたる損失額の推計値と実績値との対比

(単位：百万円)

区分	連結								
	2015年度中間期			2016年度中間期			2017年度中間期		
	損失額の実績値(A)	損失額の推計値(B)	対比(A)-(B)	損失額の実績値(A)	損失額の推計値(B)	対比(A)-(B)	損失額の実績値(A)	損失額の推計値(B)	対比(A)-(B)
事業法人向け	18,572	37,855	△19,283	12,248	30,324	△18,075	10,442	26,941	△16,499
ソブリン向け	-	75	△75	-	130	△130	-	121	△121
金融機関等向け	-	203	△203	-	177	△177	-	169	△169
PD/LGD方式を適用する株式等	6	-	6	10	-	10	0	-	0
居住用不動産向け	2,737	12,111	△9,373	2,357	11,429	△9,072	2,292	10,220	△7,927
適格リボルビング型リテール向け	-	378	△378	-	463	△463	-	416	△416
その他リテール向け	219	731	△511	236	823	△587	205	850	△645
合計	21,536	51,355	△29,819	14,853	43,348	△28,495	12,941	38,720	△25,779

区分	連結					
	2018年度中間期			2019年度中間期		
	損失額の実績値(A)	損失額の推計値(B)	対比(A)-(B)	損失額の実績値(A)	損失額の推計値(B)	対比(A)-(B)
事業法人向け	9,461	24,336	△14,874	10,534	25,166	△14,632
ソブリン向け	-	124	△124	-	127	△127
金融機関等向け	-	178	△178	-	203	△203
PD/LGD方式を適用する株式等	-	-	-	-	-	-
居住用不動産向け	1,856	9,268	△7,412	1,673	8,391	△6,718
適格リボルビング型リテール向け	-	400	△400	-	368	△368
その他リテール向け	218	845	△627	158	796	△637
合計	11,536	35,154	△23,618	12,366	35,054	△22,688

区分	単体								
	2015年度中間期			2016年度中間期			2017年度中間期		
	損失額の実績値(A)	損失額の推計値(B)	対比(A)-(B)	損失額の実績値(A)	損失額の推計値(B)	対比(A)-(B)	損失額の実績値(A)	損失額の推計値(B)	対比(A)-(B)
事業法人向け	18,572	37,981	△19,409	12,248	30,441	△18,192	10,442	26,994	△16,551
ソブリン向け	-	75	△75	-	130	△130	-	121	△121
金融機関等向け	-	203	△203	-	177	△177	-	169	△169
PD/LGD方式を適用する株式等	6	-	6	10	-	10	0	-	0
居住用不動産向け	214	11,721	△11,507	177	10,992	△10,814	162	9,831	△9,668
適格リボルビング型リテール向け	-	378	△378	-	463	△463	-	416	△416
その他リテール向け	185	726	△541	200	814	△613	171	850	△679
合計	18,978	51,086	△32,108	12,637	43,019	△30,381	10,777	38,383	△27,606

区分	単体					
	2018年度中間期			2019年度中間期		
	損失額の実績値(A)	損失額の推計値(B)	対比(A)-(B)	損失額の実績値(A)	損失額の推計値(B)	対比(A)-(B)
事業法人向け	9,461	24,387	△14,925	10,534	25,213	△14,679
ソブリン向け	-	124	△124	-	127	△127
金融機関等向け	-	177	△177	-	202	△202
PD/LGD方式を適用する株式等	-	-	-	-	-	-
居住用不動産向け	121	8,939	△8,817	142	8,194	△8,052
適格リボルビング型リテール向け	-	400	△400	-	368	△368
その他リテール向け	157	840	△683	122	787	△664
合計	9,741	34,870	△25,129	10,799	34,894	△24,095

(注) 損失額の実績値は、過去1年間の実績値としております。また、損失額の推計値は、前年同期の自己資本比率算出の際に用いた期待損失額としております。

## 信用リスク削減手法

### ●信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額

(単位：百万円)

エクスポージャー区分	2018年度中間期				2019年度中間期			
	適格金融資産担保	適格資産担保	適格保証	クレジット・デリバティブ	適格金融資産担保	適格資産担保	適格保証	クレジット・デリバティブ
標準的手法適用分	7,819	-	-	-	7,561	-	-	-
内部格付手法適用分	351,167	515,796	368,311	-	229,557	539,149	325,958	-
事業法人向け	284,145	515,293	202,037	-	184,384	538,747	180,511	-
ソブリン向け	-	503	131,879	-	-	401	112,113	-
金融機関等向け	67,021	-	-	-	45,172	-	-	-
居住用不動産向け	-	-	337	-	-	-	246	-
適格リボルビング型リテール向け	-	-	2,140	-	-	-	1,462	-
その他リテール向け	-	-	31,915	-	-	-	31,624	-
合計	358,986	515,796	368,311	-	237,118	539,149	325,958	-

- (注) 1. 連結子会社において信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーはございません。  
 2. 適格金融資産担保とは、現預金、国債・地方債、上場株式等であります。  
 3. 適格資産担保とは、割引手形動定の商業手形や電子記録債権、法的に有効な担保権が設定されている不動産担保等であります。

## 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスク

### ●派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

(単位：百万円)

項目	連結		単体	
	2018年度中間期	2019年度中間期	2018年度中間期	2019年度中間期
ネットティング効果ならびに担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額 (A)	8,300	7,232	8,300	7,232
グロス再構築コストの合計額	3,551	2,664	3,551	2,664
グロスのアドオンの合計額	4,748	4,568	4,748	4,568
一括清算ネットティング契約による与信相当額削減効果額 (B)	-	-	-	-
ネットティング効果勘案後で担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額 (C) = (A) - (B)	8,300	7,232	8,300	7,232
派生商品取引	8,300	7,232	8,300	7,232
外国為替関連取引及び金関連取引	6,030	5,244	6,030	5,244
金利関連取引	2,269	1,754	2,269	1,754
株式関連取引	-	-	-	-
貴金属関連取引（金取引を除く）	-	-	-	-
その他コモディティ関連取引	-	233	-	233
クレジット・デリバティブ	-	-	-	-
長期決済期間取引	-	-	-	-
担保の額	648	605	648	605
適格金融資産担保	168	225	168	225
適格資産担保	480	380	480	380
ネットティング効果ならびに担保による信用リスク削減手法の効果を勘案した後の与信相当額	8,142	7,017	8,142	7,017

- (注) 1. 全ての派生商品取引において、与信相当額はカレントエクスポージャー方式を採用して算出しております。  
 2. クレジット・デリバティブに該当する取引はございません。

## 証券化エクスポージャー

- 銀行又は連結グループがオリジネーターである場合における信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャー

該当ありません。

- 銀行又は連結グループが投資家である場合における信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャー

- 主な原資産の種類別の内訳

(単位：百万円)

原資産の種類	2018年度中間期		2019年度中間期	
	残高		残高	
		うち再証券化 エクスポージャー		うち再証券化 エクスポージャー
アパートローン債権	-	-	-	-
住宅ローン債権	970	-	383	-
商業用不動産向け債権	-	-	-	-
中小企業向けローン債権	-	-	-	-
企業向け貸付債権	-	-	-	-
リース債権	-	-	-	-
合計	970	-	383	-

(注) 1. 全てオン・バランス取引であり、オフ・バランス取引は該当ございません。  
2. 連結子会社では該当ありません。

- リスク・ウェイトの区分毎の残高及び所要自己資本の額

(単位：百万円)

リスク・ウェイト	2018年度中間期				2019年度中間期			
	残高		所要自己資本		残高		所要自己資本	
	うち再証券化 エクスポージャー		うち再証券化 エクスポージャー		うち再証券化 エクスポージャー		うち再証券化 エクスポージャー	
7%	970	-	5	-	-	-	-	-
20%	-	-	-	-	383	-	6	-
1250%	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	970	-	5	-	383	-	6	-

(注) 1. 全てオン・バランス取引であり、オフ・バランス取引は該当ございません。  
2. 連結子会社では該当ありません。  
3. 所要自己資本の額はリスク・アセットの額×8%で算出しております。  
なお、2018年度中間期は自己資本比率告示第152条で定められた1.06のスケールリングファクターを考慮しております。

- 自己資本比率告示第248条並びに第248条の4第1項第1号及び第2号の規定により1250%のリスク・ウェイトが適用される証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳

該当ありません。

- 再証券化エクスポージャーに対する信用リスク削減手法の適用について

信用リスク削減手法を適用した再証券化エクスポージャーはございません。

- 銀行又は連結グループがオリジネーターである場合におけるマーケット・リスク相当額の算出対象となる証券化エクスポージャー

該当ありません。

- 銀行又は連結グループが投資家である場合におけるマーケット・リスク相当額の算出対象となる証券化エクスポージャー

該当ありません。

## マーケット・リスク

- マーケット・リスク

マーケット・リスク相当額にかかる額を算入していません。

## 出資等又は株式等エクスポージャー

### ●貸借対照表計上額、時価及び次に掲げる事項に係る貸借対照表計上額

(単位：百万円)

	連結			
	2018年度中間期		2019年度中間期	
	貸借対照表計上額	時価	貸借対照表計上額	時価
上場株式等エクスポージャー	999,888	999,888	878,341	878,341
上場株式等エクスポージャー以外	3,327	3,327	3,341	3,341
計	1,003,215	1,003,215	881,682	881,682
	単体			
	2018年度中間期		2019年度中間期	
	貸借対照表計上額	時価	貸借対照表計上額	時価
上場株式等エクスポージャー	998,687	998,687	877,247	877,247
上場株式等エクスポージャー以外	12,930	12,930	12,920	12,920
計	1,011,618	1,011,618	890,168	890,168

### ●売却及び償却に伴う損益の額

(単位：百万円)

	連結		単体	
	2018年度中間期	2019年度中間期	2018年度中間期	2019年度中間期
売却損益額	2,720	3,490	2,720	3,490
償却額	0	0	0	0

### ●貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

	連結		単体	
	2018年度中間期	2019年度中間期	2018年度中間期	2019年度中間期
貸借対照表で認識され、かつ、 損益計算書で認識されない評価損益の額	726,949	637,835	726,112	637,106

### ●貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額

連結・単体とも該当ありません。

### ●株式等エクスポージャーのポートフォリオの区分毎の額

(単位：百万円)

区分	連結	
	2018年度中間期	2019年度中間期
マーケット・ベース方式の簡易手法が適用される株式等エクスポージャー	96,467	70,128
マーケット・ベース方式の内部モデル手法が適用される株式等エクスポージャー	-	-
PD/LGD方式が適用される株式等エクスポージャー	179,878	173,785
上記以外でリスク・ウェイト100%が適用される株式等エクスポージャー	0	0
合計	276,346	243,913

区分	単体	
	2018年度中間期	2019年度中間期
マーケット・ベース方式の簡易手法が適用される株式等エクスポージャー	95,577	69,240
マーケット・ベース方式の内部モデル手法が適用される株式等エクスポージャー	-	-
PD/LGD方式が適用される株式等エクスポージャー	190,010	183,903
上記以外でリスク・ウェイト100%が適用される株式等エクスポージャー	0	0
合計	285,587	253,143



## リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャー

### ●リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャーの額

(2019年度中間期)

(単位：百万円)

区分	連結	単体
ルック・スルー方式	98,207	98,203
マンドート方式	8,348	8,347
蓋然性方式 (250%)	979	979
蓋然性方式 (400%)	1,288	1,288
フォールバック方式 (1250%)	365	365
合計	109,188	109,184

- (注) 1. ルック・スルー方式とは、当該エクスポージャーの裏付けとなる個々の資産の信用リスク・アセットを算出し足し上げる方式であります。  
 2. マンドート方式とは、ファンドの運用基準に基づき最も信用リスク・アセットが大きくなる資産構成を想定し、個々の資産の信用リスク・アセットを足し上げる方式であります。  
 3. 蓋然性方式とは、当該エクスポージャーの裏付けとなる資産のリスク・ウェイトの加重平均が250% (400%) を下回る蓋然性が高い場合は250% (400%) のリスク・ウェイトを適用する方式であります。  
 4. フォールバック方式とは、上記以外の場合に1250%のリスク・ウェイトを適用する方式であります。

(2018年度中間期)

(単位：百万円)

区分	連結	単体
ルック・スルー方式	150,701	150,701
修正単純過半数方式	66,446	66,446
マンドート方式	5,552	5,551
簡便方式 (400%)	-	-
簡便方式 (1250%)	2,243	2,243
合計	224,944	224,943

- (注) 1. ルック・スルー方式とは、当該エクスポージャーの裏付けとなる個々の資産の信用リスク・アセットを算出し足し上げる方式であります。  
 2. 修正単純過半数方式とは、当該エクスポージャーの裏付けとなる資産の総額の過半数を占める株式等エクスポージャーに対応するリスク・ウェイトを適用する方式であります。  
 3. マンドート方式とは、ファンドの運用基準に基づき最も信用リスク・アセットが大きくなる資産構成を想定し、個々の資産の信用リスク・アセットを足し上げる方式であります。  
 4. 簡便方式とは、当該エクスポージャーの裏付けとなる資産のリスク・ウェイトの加重平均が400%を下回る蓋然性が高い場合は400%のリスク・ウェイトを適用し、それ以外の場合に1250%のリスク・ウェイトを適用する方式であります。

## 金利リスク

### ●金利リスクに関する事項

IRRBB 1:金利リスク

(単位：百万円)

項番		連結 ΔEVE	
		2019年度中間期	2018年度中間期
1	上方パラレルシフト	9,181	
2	下方パラレルシフト	6,204	
3	スティープ化	1,223	
4	フラット化		
5	短期金利上昇		
6	短期金利低下		
7	最大値	9,181	
8	自己資本の額	2019年度中間期 424,665	

(単位：百万円)

項番		単体 ΔEVE	
		2019年度中間期	2018年度中間期
1	上方パラレルシフト	9,181	
2	下方パラレルシフト	6,204	
3	スティープ化	1,223	
4	フラット化		
5	短期金利上昇		
6	短期金利低下		
7	最大値	9,181	
8	自己資本の額	2019年度中間期 409,146	

### ●金利リスクに関して内部管理上使用した金利ショックに対する損益又は経済的価値の増減額

(2018年度中間期)

(単位：百万円)

VaR	22,495
アウトライヤー基準に基づく標準的金利ショックによって計算される経済的価値の増減額	26,143
アウトライヤー比率	6.8%

- (注) 1. 連結貸借対照表における総資産の大部分を銀行が占めることから銀行単体にて計測しております。  
 2. VaR算定手法は、信頼係数：99%、保有期間：6か月、シミュレーション法：ヒストリカル・シミュレーション法であります。  
 3. 標準的金利ショックは、円貨、外貨ともに99パーセンタイル値と1パーセンタイル値であります。

# 中間期開示項目一覧

## 銀行法施行規則

### 〈単体情報〉

1. 銀行の概況・組織に関する事項	
(1) 大株主	37
2. 銀行の主要な業務に関する事項	
(1) 直近の中間事業年度における事業の概況	5
(2) 直近3中間事業年度及び2事業年度における主要業務指標	6
(主要業務状況の指標)	
ア、業務粗利益・業務粗利益率・業務純益・実質業務純益・コア業務純益・コア業務純益(投資信託解約損益を除く。)	21
イ、国内・国際業務部門別の資金運用収支、役員取引等収支、その他業務収支	21
ウ、国内・国際業務部門別の資金運用勘定、資金調達勘定の平均残高、利息、利回り、資金利鞘	21,22,24
エ、国内・国際業務部門別の受取利息、支払利息の増減	23
オ、総資産経常利益率・資本経常利益率	24
カ、総資産中間純利益率・資本中間純利益率	24
(預金関係指標)	
ア、国内・国際業務部門別流動性預金、定期性預金、譲渡性預金その他の預金の平均残高	25
イ、固定金利定期預金、変動金利定期預金、その他の区分ごとの定期預金の残存期間別残高	25
(貸出金等関係指標)	
ア、国内・国際業務部門別手形貸付・証書貸付、当座貸越、割引手形の平均残高	26
イ、固定・変動金利別貸出金残存期間別残高	26
ウ、担保種類別の貸出金残高及び支払承諾見返額	27
エ、使途別貸出金残高	27
オ、業種別貸出金残高及び貸出金総額に占める割合	27
カ、中小企業等に対する貸出金残高及び貸出金総額に占める割合	28
キ、特定海外債権残高5%以上の国別残高	28
ク、国内・国際業務部門別預貸率の中間期末値及び期中平均値	26
(有価証券関係指標)	
ア、商品有価証券の種類別平均残高	31
イ、有価証券の種類別の残存期間別残高	30
ウ、国内・国際業務部門別有価証券の種類別平均残高	30
エ、国内・国際業務部門別預証率の中間期末値及び期中平均値	31
(信託業務関係指標)	
ア、信託財産残高表	29
イ、金銭信託等の受託残高	29
ウ、元本補填契約のある信託の種類別の受託残高	29
エ、信託期間別の金銭信託及び貸付信託の元本残高	29
オ、金銭信託等の種類別の貸出金及び有価証券の区分ごとの運用残高	※
カ、金銭信託等に係る貸出金の科目別の残高	※
キ、金銭信託等に係る貸出金の契約期間別の残高	※
ク、担保の種類別の金銭信託等に係る貸出金残高	※
ケ、使途別の金銭信託等に係る貸出金残高	※
コ、業種別の金銭信託等に係る貸出金残高及び貸出金の総額に占める割合	※
サ、中小企業等に対する金銭信託等に係る貸出金残高及び貸出金の総額に占める割合	※
シ、金銭信託等に係る有価証券の種類別の残高	※

※ 当行は該当ありません。

3. 銀行の業務運営に関する事項	
(1) 中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組の状況	1~4
4. 銀行の直近2中間事業年度における財産の状況	
(1) 中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書	17~19
(2) 貸出金のうち次の額及び合計額	28
ア、破綻先債権	
イ、延滞債権	
ウ、3ヵ月以上延滞債権	
エ、貸出条件緩和債権	
(3) 元本補填契約のある信託に係る貸出金のうちリスク管理債権に該当するものの額並びにその合計額	※
(4) 自己資本充実の状況	39~55
(5) 流動性に係る経営の健全性の状況	※
(6) 次の取得価額又は契約価額、時価、評価損益	
ア、有価証券	32,33
イ、金銭の信託	33
ウ、デリバティブ取引	34~36
(7) 貸倒引当金の中間期末残高、期中増減額	28
(8) 貸出金償却額	28
(9) 金融商品取引法による中間貸借対照表等に関する監査証明の旨	17
(10) 単体自己資本比率算定に関する外部監査の旨	※

### 〈連結情報〉

1. 銀行・子会社等の主要業務に関する事項	
(1) 直近の事業年度における事業の概況	5
(2) 直近3中間連結会計年度及び2連結会計年度における主要業務状況指標	6
2. 銀行・子会社等の直近2中間連結会計年度における財産の状況	
(1) 中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結株主資本等変動計算書	7~9
(2) 貸出金のうち次の額及び合計額	28
ア、破綻先債権	
イ、延滞債権	
ウ、3ヵ月以上延滞債権	
エ、貸出条件緩和債権	
(3) 自己資本充実の状況	38~55
(4) 流動性に係る経営の健全性の状況	※
(5) セグメント情報	16
(6) 金融商品取引法による中間連結貸借対照表等に関する監査証明の旨	7
(7) 連結自己資本比率算定に関する外部監査の旨	※

## 金融機能の再生のための緊急措置に関する法律

1. 資産査定公表	
(1) 破産更生債権及びこれらに準ずる債権	28
(2) 危険債権	28
(3) 要管理債権	28
(4) 正常債権	28

(各項目の右に掲載ページを記載しております。)

